

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○日常で使用する国語的な基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。（知識及び技能） ○国語的な思考力・判断力を養い、文章作成や読解に役立てることができる。（思考力、判断力、表現力等） ○自主的・意欲的に、情報を調べ、取捨選択し、活用する能力や態度が身につく。（学びに向かう力、人間性等）
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
論理国語	3	全日制・普通科・3学年	論国708 論理国語(数研)

科目の目標	○ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○ 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等） ○ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力人間性等）
-------	---

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等 横断的な視点等
4月	「いき」の美学	B読むこと	10	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の点検 (ノート)	・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解する。 ・日本人の美意識について考える。	論理的な文章を読み、その内容を参考にしながら自分の意見を論じる。	
5月	「文化が違う」とは何を意味するのか？	B読むこと	10	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・新しい「普遍性」という表現に込められた筆者の意図を読み取り、自分の生活と関連づけて考察する。	文章中の例示の内容と同様の具体例を検討し話し合う。	
6月	学問の政治性	B読むこと	10	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 ② 思考・判断・表現 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	行動の確認	・「政治」に関する2つの文章を関連づけて読み、自分の意見を述べる。	二つの文章を関連づけて読み、自分の考えを論述する。	
7月	「である」と「する」こと	B読むこと	10	① 知識・技能 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。〔(1)ウ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の主張を理解したうえで自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。 関連する二つの文章を積極的に読み比べることで自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。	記述の確認	・文章内容を新聞の投稿文の内容と関連づけて考察する。	論理的な文章を読んで、筆者の考えを踏まえて自分の意見を発表する。	
9月	人はなぜ働かなくてはならないのか 人工知能はなぜ椅子に座れないのか	A書くこと	17	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。〔(1)エ〕 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の確認	・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解する。	論理的な文章を読み、筆者の考えを踏まえて自分の考えを論述する。	

10月	意志と選択 環境と心の問題	B読むこと	10	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の確認	・「意志」と「選択」についての筆者の問題提起と主張をとらえる。 ・「意志」と「選択」を混同している例を具体的に考える。	抽象的な表現で述べられた筆者の主張を具体的に説明する。	
11月～12月	顔の所有	B読むこと	10	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の主張を理解したうえで自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	記述の確認	・論の展開をふまえ、逆説的な表現の内容を説明したり、筆者の主張の根拠をまとめたりする。 ・引用という表現技法の働きを引用以外の文章との関連性からとらえる。	論理的な文章を読み、その展開の仕方を踏まえて筆者の考えを分かりやすく言い換える。	
12月～1月	無常ということ	B読むこと	10	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の主張を理解したうえで自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・「美」や「無常」について筆者はどのようなことを言おうとしているのかを具体例を手がかりにとらえ、考察する。	文章の内容を踏まえて考えたことを具体例や根拠を明示して話し合う。	
2月～3月	【探究の扉】我が国と諸外国の若者の意識に関する調査・希望を語る	A書くこと	18	① 知識・技能 推論の仕方について理解を深めて使っている 〔(2)ウ〕 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、多面的多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねるなどして、主張を明確にしている。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 課題テーマについて積極的に自分の考えを深め、文章内容を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。	記述の確認	・統計資料から、日本の若者が持つ「自分自身のイメージ」について読み取る。 ・「希望」が形成される過程を文章から読み取り、将来への希望をもつために必要なことについて自分の考えを論述する。	統計資料と文章を関連付けて読み、自分の考えを論述する。	
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと		0					
	書くこと		35					
	読むこと		70					
指導時間数の合計			105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○日常で使用する国語的な基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。（知識及び技能） ○国語的な思考力・判断力を養い、文章作成や読解に役立てることができる。（思考力、判断力、表現力等） ○自主的・意欲的に、情報を調べ、取捨選択し、活用する能力や態度が身につく。（学びに向かう力、人間性等）
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)			
国語表現		2	全日制・普通科・3学年(Ⅰ類)		国表701／国語表現(大修館書店)			
科目の目標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。						
時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等 横断的な視点等
4月	【第1部】表現力を培う 3 小論文・レポート 入門 レッスン3 文章を読み取って 書く 【表現への扉】ロボット社 会の本質／コインは円形 か？	B書く こと	4	【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、 読み取った文章の要旨から適切な題材を決め、情 報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを 明確にしている。〔B(Ⅰ)ア〕 ・「書くこと」において、読み手の共感が得られ るよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、 文章の構成や展開を工夫している。〔B(Ⅰ)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章から読み取ったことをふまえて小論文を書 くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとして いる。	・観察 ・ノート （ワークシー ト） ・小テスト	・文章の要旨をつかむための 方法を理解する。 ・資料に対する自分の意見を 明確にして小論文を書く。	・資料に対する自分の意見を明 確にして小論文を書く。	・【表現への 扉】ロボット社 会の本質／コイ ンは円形か？
5月	【第1部】表現力を培う 3 小論文・レポート 入門 レッスン4 統計資料を読み 取って書く 【表現への扉】0.01%の水 ／データを読む③／データ を読む④	B書く こと	4	【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、 読み取った統計資料から適切な題材を決め、情報 の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明 確にしている。〔B(Ⅰ)ア〕 ・「書くこと」において、自分の考えを明確にし、 根拠となる情報をもとに的確に説明するなど、 表現のしかたを工夫している。〔B(Ⅰ)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・統計資料から読み取れることをもとに小論文を 書く活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとし ている。	・観察 ・ノート （ワークシー ト） ・小テスト	・統計資料から読み取ったこと をふまえて論点を整理す る。 ・統計資料から読み取ったこと をふまえて小論文を書く。	・統計資料から読み取ったこと をふまえて小論文を書く。	・【表現への 扉】0.01%の水 ／データを読む ③／データを読 む④
	【第1部】表現力を培う 3 小論文・レポート 入門 レッスン5 発想を広げて書く	B書く こと	4	【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて発 想を広げるための方法を理解し、情報の組み合わ せなどを工夫して、伝えたいことを明確にしてい る。〔B(Ⅰ)ア〕 ・「書くこと」において、読み手の同意が得られ るよう、発想を広げたことをふまえて、適切な根 拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定し て論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を 工夫している。〔B(Ⅰ)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・与えられたテーマから発想を広げて小論文を書 く活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとして いる。	・観察 ・ノート （ワークシー ト） ・小テスト	・文章の要旨をつかむための 方法を理解する。 ・資料に対する自分の意見を 明確にして小論文を書く。	・資料に対する自分の意見を明 確にして小論文を書く。	
6月	【第1部】表現力を培う 4 自己PRと面接 レッスン4 志望理由を書こう	B書く こと	4	【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、 志望先と自分に関わる事柄の中から適切な題材を 集め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたい ことを明確にしている。〔B(Ⅰ)ア〕 ・「書くこと」において、自分の考えを明確にし、 根拠となる情報をもとに的確に説明するなど、 表現のしかたを工夫している。〔B(Ⅰ)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報を調べて集め、説得力のある志望理由を書 くことに興味をもち、意欲的に学習に取り組もう としている。	・観察 ・ノート （ワークシー ト） ・小テスト	・志望先についての情報を適 切な方法で集める。 ・調べたこと、やりたいこと ・調べたこと、やりたいこと と、自己PRの三つを結びつけ て、説得力のある志望理由を 書く。	・調べたこと、やりたいこと、 自己PRの三つを結びつけて、説 得力のある志望理由を書く。	
	【第1部】表現力を培う 4 自己PRと面接 レッスン5 自己推薦書や学修 計画書を書く	B書く こと	4	【知識・技能】 ・書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理 解を深め、目的や場面、相手、手段に応じた適切 な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。〔 (Ⅰ)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、 情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいこと を明確にしている。〔B(Ⅰ)ア〕 ・「書くこと」において、自分の思いや考えにつ いて、文章の種類を選んで書いている。〔B(Ⅱ) ア〕	・観察 ・ノート （ワークシー ト） ・小テスト	・志望先に提出する書類に求 められていることを適切に理 解する。 ・具体的で要素の関連性を重 視した書類を書く。 ・適切な言葉遣いで書類を書 く。	・具体的で要素の関連性を重視 した書類を書く。 ・適切な言葉遣いで書類を書 く。	

				【主体的に学習に取り組む態度】 ・文書を書くときの留意点や、より説得力のある書類を書くことに興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。				
7月	【第1部】表現力を培う 4 自己PRと面接 レッスン6 面接にチャレンジ	A 話すこと・聞くこと	4	【知識・技能】 ・話し言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解して使っている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選び、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。〔A (1)エ〕 ・「話すこと・聞くこと」において、面接の場で自分のことを伝えたり、それらを聞いて批評したりしている。〔A (2)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・面接の留意点や面接での言葉遣いについて興味をもち、意欲的に自己評価や相互評価まで取り組もうとしている。	・観察 ・ノート（ワークシート） ・小テスト	・適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをする。 ・質問に対して、具体的に説得力のある答え方で答える。	・適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをする。 ・質問に対して、具体的に説得力のある答え方で答える。	
9月	【第1部】表現力を培う 5 メディアを駆使する レッスン1 通信文を書き分ける	B 書くこと	6	【知識・技能】 ・書き言葉の特徴や役割、表現の特色、通信文ごとの形式の違いについて理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現のしかたを工夫している。〔B (1)オ〕 ・「書くこと」において、紹介、連絡、依頼などの実務的な手紙や電子メールを書いている。〔B (2)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・さまざまな通信文の使い分けや、手紙の書き方に興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	・観察 ・ノート（ワークシート） ・小テスト	・さまざまな通信文の形式を理解する。 ・相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。	・相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。	
	【第1部】表現力を培う 5 メディアを駆使する レッスン2 電話を使いこなす	A 話すこと・聞くこと	3	【知識・技能】 ・話し言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選んだり、電話におけるマナーを意識したやりとりを工夫したりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。〔A (1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・電話での効果的なやりとりのしかたに興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	・観察 ・ノート（ワークシート） ・小テスト	・初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解する。 ・相手に応じた適切な言葉遣いや応答のしかたを理解する。	・初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解する。 ・相手に応じた適切な言葉遣いや応答のしかたを理解する。	
10月	【第1部】表現力を培う 5 メディアを駆使する レッスン3 電子メールを活用しよう	B 書くこと	4	【知識・技能】 ・伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分ける。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、電子メールの特徴を理解し、注意点や適切な表現のしかたを意識して電子メールを送っている。〔B (2)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・議論やワークシートへの書き込み、課題の提出をとおして、電子メールの特徴や活用法について理解しようとしている。	・観察 ・ノート（ワークシート） ・小テスト	・電子メールを活用する上でのエチケットを理解する。	・電子メールを活用する上でのエチケットを理解する。	
	【第1部】表現力を培う レッスン6 メディアと情報 【表現への扉】メディアって何？／すべては編集されている	B 書くこと A 話すこと・聞くこと	1 1	【知識・技能】 ・さまざまなメディアの種類や特徴、メディアリテラシーをもとにした情報との向き合い方について理解を深めている。〔(1)エ〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、メディアとの付き合い方を題材に設定して多様な資料を集め、調べたことを整理したり話し合ったりして、自分や集団の意見をまとめている。〔B (2)オ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・さまざまなメディアの特徴とそれから得られる情報について興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	・観察 ・ノート（ワークシート） ・小テスト	・情報が編集されていることを理解する。 ・メディアごとに立場や条件が異なり、情報の伝え方が異なることを理解する。	・メディアごとに立場や条件が異なり、情報の伝え方が異なることを理解する。	・【表現への扉】メディアって何？／すべては編集されている
	読書のひろば ・宝探してみたいに本の世界へ入っていく（芦田愛菜）	A 話すこと・聞くこと	0.5	【知識・技能】 ・自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。〔A (1)ア〕 ・視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。〔A (1)カ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・読書に興味をもち、意欲的に読書に取り組もうとしている。	・観察 ・ノート（ワークシート） ・小テスト	・読書に興味をもち、意欲的に読書に取り組む。	・読書に興味をもち、意欲的に読書に取り組む。	・宝探してみたいに本の世界へ入っていく（芦田愛菜）

10月	読書のひろば ・想像力の世界（金原瑞人）	A 話すこと・聞くこと	0.5	【知識・技能】 - 自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 - 目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。〔A (1) ア〕 - 視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。〔A (1) カ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 - 読書に興味をもち、意欲的に読書に取り組もうとしている。	- 観察 - ノート（ワークシート） - 小テスト	読書に興味をもち、意欲的に読書に取り組む。	読書に興味をもち、意欲的に読書に取り組む。	想像力の世界（金原瑞人）
11月	読書のひろば ・ビブリオバトルをしよう	A 話すこと・聞くこと	5	【知識・技能】 - 話し言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分ける。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。〔A (1) ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 - 気に入りの本の魅力を紹介する活動をとおして、話し言葉の特徴や役割、表現の特色を理解し、自分の思いや考えが伝わるよう、話の構成や展開を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。	- 観察 - ノート（ワークシート） - 小テスト	- 読書に興味をもち、意欲的に読書に取り組む。 - 自分のお気に入りの本の魅力を聞き手を意識して話す。	- 読書に興味をもち、意欲的に読書に取り組む。 - 自分のお気に入りの本の魅力を聞き手を意識して話す。	
12月	【第2部】表現を楽しむ 5「わが町自慢」のパンフレット作り	B 書くこと	7	【知識・技能】 - 省略や反復などの表現の技法について理解を深め使っている。〔(1)オ〕 【思考・判断・表現】 「書くこと」において、パンフレット編集の目的や意図に応じて、適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。〔B (1) ア〕 「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、調査内容の簡潔な文章や適切な写真・図の効果的な配置など、パンフレットの構成を工夫している。〔B (1) ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 - パンフレット作りに興味をもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。	- 観察 - ノート（ワークシート） - 作品	- 読み手を意識し、伝えたいことをわかりやすく書く。 - 調べたことを効果的に伝えるために、内容の構成や冊子の体裁を工夫する。	- 読み手を意識し、伝えたいことをわかりやすく書く。 - 調べたことを効果的に伝えるために、内容の構成や冊子の体裁を工夫する。	
1月	【第2部】表現を楽しむ 3 日常生活の正しい過ごし方	B 書くこと	3	【知識・技能】 - 説明書の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 「書くこと」において、説明書の目的や意図に応じて、自分に関わる事柄の中から個性的な題材を決め、文体や情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。〔B (1) ア〕 「書くこと」において、説明すべき事柄を明確にし、事象を効果的に説明するなど、表現のしかたを工夫している。〔B (1) オ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 - ユーモラスな取扱説明書を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。	- 観察 - ノート（ワークシート） - 作品	- 読者を意識して、物事の手順をわかりやすく書いて伝える。 - 接続表現や順序を表す言葉などを効果的に用いる。	- 読者を意識して、物事の手順をわかりやすく書いて伝える。 - 接続表現や順序を表す言葉などを効果的に用いる。	
	【第2部】表現を楽しむ 8 みんなで作ろう国語辞典	B 書くこと	3	【知識・技能】 - 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)ウ〕 【思考・判断・表現】 「書くこと」において、自分の考えを明確にし、根拠となる情報を基に的確に説明するなど、表現のしかたを工夫している。〔B (1) エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 - 言葉の定義を書いたり国語辞典を作ったりする活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。	- 観察 - ノート（ワークシート） - 作品	- 辞書に親しみをもち、言葉を意識し、語彙を広げ、言語感覚を豊かにする。 - 辞書の言葉の定義のしかたや構成要素を意識し、わかりやすく適切な説明を書く。	- 辞書に親しみをもち、言葉を意識し、語彙を広げ、言語感覚を豊かにする。 - 辞書の言葉の定義のしかたや構成要素を意識し、わかりやすく適切な説明を書く。	
2月	【第2部】表現を楽しむ 9「私の虫類図譜」を作ろう	B 書くこと	3	【思考・判断・表現】 「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。〔B (1) ウ〕 「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現のしかたを工夫している。〔B (1) オ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 - 絵と組み合わせて文章を書く活動に意欲的に取り組もうとしている。	- 観察 - ノート（ワークシート） - 作品	- 想像を膨らませ、自分が考えた「虫」の特徴を、具体的にイメージが伝わるように書く。 - 絵と文章との関係を意識しながら効果的な文章表現を工夫する。	- 想像を膨らませ、自分が考えた「虫」の特徴を、具体的にイメージが伝わるように書く。 - 絵と文章との関係を意識しながら効果的な文章表現を工夫する。	

2月	【第2部】表現を楽しむ 10 エッセイを書こう	B書くこと	6	【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、読み手を楽しませるよう、さまざまなエッセイを参考にしながら適切な題材を決め、文章の構成や展開を工夫している。〔B (1)ウ〕 ・「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などをふまえて、自分の文章の特長や課題をとらえ直したりしている。〔B (1)カ〕	・観察 ・ノート（ワークシート） ・作品	・読者を意識し、ほかのエッセイを参考にしながら、構成、文体、表現などを意識してエッセイを書く。 ・書き上げたエッセイを読み返し、ほかの人の意見なども取り入れて推敲する。	・読者を意識し、ほかのエッセイを参考にしながら、構成、文体、表現などを意識してエッセイを書く。 ・書き上げたエッセイを読み返し、ほかの人の意見なども取り入れて推敲する。	
3月	【第2部】表現を楽しむ 12 こちら悩みごと相談室	B書くこと	3	【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、悩みごと相談の目的や意図に応じて、適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。〔B (1)ア〕 ・「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。〔B (1)ウ〕	・観察 ・ノート（ワークシート） ・作品	・相手を意識し、相手の気持ちに寄り添って、相談の回答を書く。 ・相手の共感が得られるよう、文章の内容や構成、表現のしかたを工夫する。	・相手を意識し、相手の気持ちに寄り添って、相談の回答を書く。 ・相手の共感が得られるよう、文章の内容や構成、表現のしかたを工夫する。	
指導領域ごとの計	話すこと・聞くこと		14					
	書くこと		56					
	読むこと							
	指導時間数の合計		70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○国語的な基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。（知識及び技能） ○国語的な思考力・判断力を養い、文章作成や読解に役立てることができる。（思考力、判断力、表現力等） ○自主的・意欲的に、情報を調べ、取捨選択し、活用する能力や態度が身につく。（学びに向かう力、人間性等）
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)			
実用国語		2	全日制・普通科・3学年		改訂版 プレミアムカラー 国語便覧(数研出版)			
科目の目標		古典としての古文と漢文に触れるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。文章要約問題を通して、「読むこと」「書くこと」の技能の習熟を図り、それらを活用する能力を伸ばすことを目指す。						
時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月 2週目 ～ 5月 1週目	上代文学の流れ 中古文学の流れ	A書くこと B読むこと	8	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・古典を通じて深めた自己の考えや発見を効果 的な方法で表現できるよう工夫している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	鑑賞文の作成 グループワーク	
5月 2週目 ～ 4週目	中世文学の流れ 近世文学の流れ	A書くこと B読むこと	6	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・古典を通じて深めた自己の考えや発見を効果 的な方法で表現できるよう工夫している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	鑑賞文の作成 グループワーク	
6月 1週目 ～ 7月 1週目	文を要約する	A書くこと B読むこと	10	① 知識・技能 ・要約に必要な情報を取捨選択し、文章構成に 役立てることができる。 ② 思考・判断・表現 ・状況に応じた漢字や接続表現等を使用するこ とができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	述語を引き出す 主語を引き出す 主題を引き出す 「主題＋述部」で要約する 抽象化 具体化	要約文の作成 グループワーク	
7月 2週目 ～ 9月 3週目	史書 和歌 物語 日記	A書くこと B読むこと	10	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・古典を通じて深めた自己の考えや発見を効果 的な方法で表現できるよう工夫している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	鑑賞文の作成 グループワーク	
9月 4週目 ～ 10月 2週目	歴史物語 随筆 説話	A書くこと B読むこと	6	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・古典を通じて深めた自己の考えや発見を効果 的な方法で表現できるよう工夫している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	鑑賞文の作成 グループワーク	
10月 3週目 ～ 4週目	軍記物語 俳諧	A書くこと B読むこと	4	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・古典を通じて深めた自己の考えや発見を効果 的な方法で表現できるよう工夫している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	鑑賞文の作成 グループワーク	
11月 1週目 ～ 3週目	近現代文学の流れ	A書くこと B読むこと	6	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・古典を通じて深めた自己の考えや発見を効果 的な方法で表現できるよう工夫している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	鑑賞文の作成 グループワーク	
11月 4週目 ～ 12月 2週目	短い文章を要約する 長い文章を要約する	A書くこと B読むこと	6	① 知識・技能 ・要約に必要な情報を取捨選択し、文章構成に 役立てることができる。 ② 思考・判断・表現 ・状況に応じた漢字や接続表現等を使用するこ とができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	対比関係 因果関係 複数の文で要約する 部分要約 主張の具体例を要約する 長文を要約する	要約文の作成 グループワーク	
12月 3週目 ～ 1月 1週目	漢文学の流れ 思想 史伝 詩文	A書くこと B読むこと	14	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・古典を通じて深めた自己の考えや発見を効果 的な方法で表現できるよう工夫している。	・ 考査 ・ 考査	ワークシート	鑑賞文の作成 グループワーク	

4週日	小説		③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。	・提出物			
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと						
	書くこと	35					
	読むこと	35					
指導時間数の合計		70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
日本史探究		3	全日制・普通科・3学年(Ⅰ類)		精選日本史探究(実教出版社)		
科目の目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	第1章 1. 列島にくらしはじめた人々 2. 農耕がうまれる 3. クニがうまれる 4. ヤマト政権の形成 5. 倭の五王と氏姓制度	9	① 知識・技能 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解している。	定期考査	旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立に至る時期の日本列島の歴史的環境と文化の形成とを関連付けて時代の転換を理解し、原始社会の特色や古代の国家や社会との関わりについて多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸や朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 時代を通観する問いを表現する学習については、知識・技能や思考・判断・表現力の学習や、原始社会の特色についての考察などを踏まえ、例えば、身近な地域や周辺の地域の縄文や弥生などの時代の遺構や遺物から分かることなどを確認し、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を交えて、相互に表現する。それらの疑問を基に、教師が問いかけをおこなうなどして、原始社会の特色について課題意識をもって考察するよう指導を工夫する。それらを踏まえて、生徒が、例えば、「集落や国家は何を契機とし、何を目的に形成されたのだろうか」など、原始社会の特色と古代の国家や社会を展望する手がかりを得るための筋道や学習の方向性を導く問いを表現する学習をおこなう。	授業態度			
5月～ 6月	第2章 6. 飛鳥の朝廷 7. 大化改新から壬申の乱へ 8. 律令国家の形成 9. 東アジアのなかの天平文化 10. 奈良時代の政治と社会 11. 平安時代初期の政治と文化 12. 摂関政治と国風文化 13. 摂関期の社会と経済	12	① 知識・技能 国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解している。貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解している。	定期考査	古代の国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、古代の日本の国家・社会の展開について理解している。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 原始社会の特色や古代の国家や社会との関わり の理解や時代を通観する問い、古代を展望する 仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、古代 の国家や社会の展開について、事象の意味や意 義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史 の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を 示して表現する学習を通じて、古代がどのよう な時代であったかを理解するとともに、思考 力、判断力、表現力等の育成を図る。学習に当 たっては、資料を活用して歴史を考察したりそ の結果を表現したりする力を段階的に高めてい くことが必要であり、様々な資料の特性に着目 して複数の資料の活用を図り、資料に対する批 判的な見方を養うとともに、因果関係を考察し たり、解釈の多様性に気付くようにする。	授業態度			

6月～ 7月	第3章 14. 院政と中世荘園 15. 奥州藤原氏と平氏 16. 治承・寿永の乱と鎌倉幕府 17. 承久の乱と公武関係 18. 地頭・御家人と荘園制の変質 19. 鎌倉時代の経済・産業と自然環境 20. モンゴル襲来と日宋・日元交流 21. 社会の変動と鎌倉幕府の滅亡	12	① 知識・技能 貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。	定期考査	平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 中世の特色についての考察などを踏まえ、例えば、武士の政治への関与が社会にもたらした変化や、併存する政治勢力がそれぞれの勢力を維持していた状況など、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し、それらの疑問を基に、教師が問いかけをおこなうなどして、中世の特色について課題意識をもって考察するように指導を工夫する。それらを踏まえて、生徒が、例えば、「なぜ中世では、同じ時期に、政治や社会に力をもつ人や集団が複数存在していたのだろうか」など、中世の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現する学習が考えられる。	授業態度			
9月	第4章 22. 南北朝の内乱 23. 足利義満と室町幕府 24. 東アジアの海をゆきかう人々 25. 惣村と一揆 26. 戦国時代の幕あけ 27. 室町・戦国時代の流通経済 28. 戦国時代の政治と社会	12	① 知識・技能 武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などをもとに、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解している。	定期考査	平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的にとらえて理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 公武関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 この小項目の内容の確かな理解をはかるためには、生徒が上記の意味や意義、関係性などの考察をふまえて、考察の結果を根拠や論理をもって筋道をたてて説明したり、歴史に関わる諸事象についての複数の解釈や、歴史の展開における様々な画期について考察した結果を表現したりする学習が重要となる。諸事象の解釈や画期を考察して表現することをうながすための課題（問い）を設定して、長期化する争乱が幕府政治にもたらした変容や、海外貿易の発展とそれが国内に与えた影響や国家間の交易と私貿易のそれぞれの意味、室町時代の宗教や文化の特色と影響について考察し、根拠を示して考察した結果を表現する学習などが考えられる。また、「あなたは、この時期に成立した村や町の運営は、現代の私たちが考える自治とどのような類似点と相違点があるか」と、「あなたは、室町時代の宗教や文化について、現代の文化や生活習慣、考え方などどのような関係を指摘することができるか」などの課題（問い）を設定して、当時の庶民の経済的・政治的な成長とともに、各地に残る芸能や祭礼など、生徒の視点からみいだすことができる現代との関係性についても考察して、根拠を示して考察した結果を表現するなどの学習が考えられる。また、課題（問い）を設定する際には、大項目Cへの学習のつながりを踏まえ、近世につながる諸要素がどのように現れてくるのかという点にも留意することも大切である。	授業態度			
10月	第5章 29. 「南蛮」との出会い 30. 織豊政権の全国統一 31. 東アジアの変動と豊臣政権 32. 江戸幕府の支配のしくみ 33. 江戸時代の対外関係 34. 身分制と村・町の生活	12	① 知識・技能 織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解している。	定期考査	織豊政権の成立前後からの歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 近世の特色についての考察などを踏まえ、例えば、織豊政権が戦国時代を終わらせることができた理由や、海外から伝わった新たな文化が社会の変化に与えた影響など、生徒がこれまでの学習を通じて生じた様々な疑問を相互に表現し、それらの疑問を基に、教師が問いかけを行うなどして、近世の特色について課題意識をもてる。それらを踏まえて、生徒が、例えば、「なぜ長期間にわたって大きな戦乱が起こらない時代を形成できたのか」など、近世の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現できるよう学習を深めている。	授業態度			

11月	第6章 35. 幕府政治の転換 36. 産業の発展 37. 交通網の発達と都市の繁栄 38. 徳川吉宗・田沼意次と財政問題 39. 商品経済の発達と民衆の運動 40. 寛政の改革と欧米諸国の日本接近 41. 江戸時代後期の学問・文化 42. 天保の改革	12	① 知識・技能 法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解している。産業の発達、飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などを基に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解している。	定期考査	第5章で学んだ中世から近世への転換の理解や時代を通観する問い、近世を展望する仮説を踏まえ、資料を扱う技能を活用し、近世の国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化、交通・流通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 学習にあたっては、近世の国家・社会の変容について考察するための主題を設定する。その主題を学習上の課題とするために、例えば、「幕藩体制が変容し、維持できなくなったのはなぜだろうか」、「近代化の萌芽はいつごろからみられるのだろうか」など、この項目全体に関わる問いを設定して、生徒に提示し、小項目のねらいに則した学習を展開できるようにすることが大切である。そのために、以下のそれぞれの事象の学習では段階的な課題（問い）を設定することが求められる。このような一連の学習を通して、この項目のねらいである幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成の理解に至るようにする。	授業態度			
12月	第7章 43. 開国 44. 倒幕と「ええじゃないか」 45. 明治維新 46. 文明開化 47. 富国強兵 48. 国境の画定 49. 自由民権運動 50. 激化事件 51. 大日本帝国憲法	12	① 知識・技能 対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の転換を理解している。	定期考査	対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などをもとに、近世から近代への時代の転換を理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察する学習については、小項目（7）の近世から近代への転換の理解や、「中学校社会科歴史的分野における学習の成果を活用する」（内容の取扱い）とともに、「歴史総合」の学習で獲得した概念などを活用し、近世との比較や他地域や他国との比較などを通して、例えば、当時の我が国が直面していた国内外における諸課題やその対応、政治や経済など諸側面の変化などから、近代の特色について多面的・多角的に考察する学習などが考えられる。時代を通観する問いを表現する学習については、小項目（7）の学習や、近代の特色についての考察などから生じた様々な疑問を相互に表現する活動などを通じて、それらの疑問をもとに、教師が問いかけをおこなうなどして、近代の特色について課題意識をもって考察できるように指導を工夫する。それらをふまえて、生徒が、例えば、「日本は、どのような契機によって、近代的な社会の形成に向かったのだろうか」など、近代の特色を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現する学習が考えられる。	授業態度			
	第8章 52. 日清戦争		① 知識・技能 明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、条約改正、日清・日露戦争、第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などをもとに、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解している。	定期考査	近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成をはかりつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的にとらえる。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	レポート			

12月～1月	53. 1900年前後の世界と東アジア 54. 日露戦争 55. 社会問題と地域社会 56. 大正デモクラシー 57. 第一次世界大戦と日本 58. 資本主義の成長 59. 改造の時代 60. 植民地	12	③ 主体的に学習に取り組む態度 この小項目の内容の確かな理解をはかるためには、生徒が上記の意味や意義、関係性などの考察をふまえて、考察の結果を根拠や論理をもって筋道をたてて説明したり、歴史に関わる諸事象についての複数の解釈や、歴史の展開における様々な画期について考察した結果を表現したりする学習が重要となる。例えば、「あなたは、当時の様々な立場の人々が日本のおかれた状況やあるべき姿をどのように意識していたと考えるか」などの、諸事象の解釈や画期を考察し表現するための課題（問い）を設定して、世界を認識したこの時代の人々の意識や判断を考察する学習や、「あなたは、地域社会が近代をむかえたのはいつだと考えるか、またそれはなぜか」、「あなたは、対外的な戦争は日本の近代化の過程の中で、どのような意味をもったと考えるか」などの問い（課題）を設定して、地域における近代国家の形成についてそれぞれの考えを表現して根拠をもとに議論したり、戦争がもたらした国内的、国際的な変化それぞれの重要性や相互の関係について根拠をもとに考察したことを表現したりするといった学習が考えられる。	授業態度			
2月～3月	第9章 61. 普通選挙と治安維持法 62. 大日本帝国の選択肢 63. 満洲事変とモダニズム 64. 日中戦争と総力戦 65. アジア太平洋戦争 66. 敗戦	12	① 知識・技能 恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などをもとに、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解している。 ② 思考・判断・表現 国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 諸事象の解釈や画期を考察し表現するための課題（問い）を設定して、日本が国際的孤立を回避するために、アメリカ合衆国やソヴィエト連邦など国際連盟未加入国やドイツ・イタリアとの関係を、どのように構築しようとしたかを考察したり、「あなたは、戦争が不可避となった画期について、どの出来事がそれにあたると考えるか、当時、どのような根拠にもとづいてそれが選択されたと考えるか、現代において同様の事態を回避するためには何が必要なのだろうか」などの課題（問い）を設定して、世界恐慌を契機とした保護貿易主義のひろがりや全体主義の台頭、中国などにおける民族運動の進展などの国際環境と国内の状況とを関連付けて考察したりして、当時の国際状況、国内状況についての考察をふまえ、歴史のなかで、どのような判断が何を根拠におこなわれたのかについて、根拠をもとに考察した結果を表現するなどの学習が考えられる。その際、当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の回顧録などから、当時どのような観点で議論がすすめられたのかなどについて考察したりして、現代の視点と比較しながら議論するなどの学習も考えられる。	定期考査 レポート 授業態度	近代から現代に至る国家や社会の展開について、主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する学習を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を図りつつ、近現代がどのような時代であったかを構造的に捉える。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自励心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
政治・経済		3	全日制・普通科・3学年		最新政治・経済(実教出版)		
科目の目標		学習を通じて、現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につけるとともに、課題の解決のために主体的に考え判断する能力を身に付けることを目指す。社会課題に対する見方、考え方はさまざまあり多面的であることを重視し、その複数性の中で生徒が自分で考え対話を通じて、合意形成を目指す、公共的存在としての能力を養うこととくに重点を置く。 これを達成するために、さまざまな社会問題を身近な話題に引き付けて考えるテーマ学習を豊富に設定している。主体的、対話的な授業を通し、生徒が社会参画者であることの自覚を深めることを目標とする。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価基準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	第1部 第1編1章 1民主政治と法 2民主政治の基本原則 3民主政治のしくみと課題 4世界のおもな政治制度	8	① 知識・技能 ・政治と法の意義と役割について理解している。 ・民主政治のしくみと課題を理解している。 ・各国の政治制度の特徴について、民主政治の諸原理にも着目しながら理解している。	定期考査	○政治とは何か。国家とは何か。法の意義と役割とは何か。近代民主政治は、どのようにして成立したのだろうか。 ○社会契約説とは何か。法の支配とは何か。基本的人権の保障はどのように拡大していったのだろうか。 ○国民主権とは何か。議会制民主主義とは何か。権力分立と立憲主義はなぜ重要とされているのだろうか。 ○世界の国々が採用している議院内閣制と大統領制には、民主政治の諸原理がどのように反映されているのだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・政治とはどのような営みか、自身の身近な事例にも言及しながら考察し、適切に表現している。 ・基本的人権や法の支配の重要性について、歴史的背景にも言及しながら考察し、それらを適切に表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・国民主権を担う公民としての自覚をもとに、民主政治のあり方や法の意義、基本的人権や法の支配の重要性、民主政治の課題、現実の政治制度に関する課題について主体的に理解・追究しようとしている。	授業態度			
4月	第1編2章 1日本国憲法の成立 2日本国憲法の基本原則 3自由に生きる権利(1)	6	① 知識・技能 ・日本国憲法の成立過程を理解している。 ・諸外国の憲法に関連する諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。	定期考査	○日本国憲法はどのようにして制定されたのか。明治憲法とはどのような違いがあるのだろうか。日本国憲法の三大基本原理とは何か。憲法改正とは何か。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・日本の憲法改正手続きについて、p. 21のQ&Aも踏まえながら、その運用上の課題について協働的に考察し、適切に表現している (p. 21／Try)。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・憲法の最高法規性や日本国憲法の原理、改正手続きなどについて主体的に理解・追究しようとしている。 ・日本国憲法の三大基本原理が私たちの人権や政治に果たしている役割について関心を高め、主体的に追及しようとしている。	授業態度			
5月	第1編2章 4自由に生きる権利(2) 5平等に生きる権利 6社会権と参政権・請求権 7新しい人権 8人権の広がりと公共の福祉 9平和主義と自衛隊 10日米安全保障体制の変化 1121世紀の平和主義	10	① 知識・技能 ・自由権・平等権・社会権などの諸権利の内容と社会課題について信頼性の高い情報源から収集し、それぞれ適切に分類・整理したうえで、理解している。 ・社会的権力による人権侵害の課題や人権の国際化の動き、公共の福祉について具体的な事例を信頼性の高い情報源から収集し、理解している。 ・日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制がうまれた背景と変容、こんにちの課題について理解している。	定期考査	○日本国憲法が保障する基本的人権のうち、精神の自由にはどのような自由があるのだろうか。 ○社会権にはどのような権利があり、どのように保障されているか。 ○新しい人権は、どのような社会の変化のなかで求められてきたか。どのような権利が主張されているのだろうか。 ○平和憲法のもと、どのようにして自衛隊は創設され、活動範囲をひろげてきたのか。その背景とは何だろうか。 ○日米安全保障体制の役割は、どのように変化しているのか。沖縄がかかえている課題とは何だろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	道徳 総合的な学習の時間
			② 思考・判断・表現 ・自由権、平等権、社会権について、各種判例や自身の身近な事例などと結びつけながら協働的に考察し、適切に表現している。 ・社会権の保障について、協働的に考察し、適切に表現している。 ・現実社会の問題の解決と個人の権利との調整について、生徒みずからが調べて収集した具体的な事例にもとづきながら協働的に考察し、適切に表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・基本的人権が保障されていることの意義を知り、関心が高まっている。また、たとえば平等権と社会的な差別の諸課題について多面的かつ主体的に考察し、よりよい社会の実現を視野に、学習したことを社会の改善に生かそうとしている。	授業態度			

6月	第1編3章 1政治機構と国会 2内閣と行政機能の拡大 3公正な裁判の保障 4地方自治と住民福祉 5政党政治 6選挙制度 7世論と政治参加	10	① 知識・技能 ・国会、内閣の役割や権限、運営について理解している。 ・司法権の独立や裁判のしくみ、各裁判所の役割について理解している。 ・地方自治の本旨について理解し、住民自治に基づく住民の権利や住民投票など、住民の意思を反映させる手段について理解している。 ・選挙制度の課題、政治活動に関する規制の現状について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 ・マス・メディアや市民運動が世論形成と政治にもたらす影響について理解している。 ・民意を国政に反映させる多様な方法について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。	定期考査	○国会の地位・役割・構成・権限とはどのようなものか。国会・内閣・裁判所の関係はどのようなになっているのだろうか。 ○内閣はどのような構成で、どのような権限をもっているか。行政の民主化に必要なことは何だろうか。 ○司法権の独立はなぜ重要か。違憲審査権の意義は何か。司法制度改革で司法はどうか変わったのだろうか。 ○地方自治の本旨とは何か。日本の地方自治はどのような財政上の課題をもち、国との関係はどうなっているのだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・議員立法に関する情報を読み取り、その課題について多面的に考察している。 ・より公正な選挙制度のあり方について、「多様な民意の反映」や「政治の安定」といった観点に立ちながら多面的に考察し、適切に表現している（p.53／Try）。 ・SNSやインターネットの普及が世論形成に与えるメリットとデメリットについて多面的に考察し、適切に表現している。	レポート	○政党とは何か。戦後日本の政党政治はどう変遷してきたのか。政党政治にはどのような課題があるのだろうか。 ○日本の選挙制度の特徴とは何か。選挙制度の課題にはどのようなものがあるのだろうか。 ○世論を政治に反映させるために何が必要か。メディアの責任とは何か。市民としてできることは何だろうか。		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・相手の意見を聞き、複数の選択肢を横断し、最適な解を模索している。 ・政治と民意の関係について主体的に追究し、民意を政治に反映させるための課題を意欲的に解決しようとしている。	授業態度			
7月	第2編1章 1経済活動の意義 2経済社会の変容 3経済主体と市場の働き 4企業の役割 5国民所得 6経済成長と国民の福祉	8	① 知識・技能 ・経済の根本的な概念について理解している。 ・需要と供給により価格と生産量が変化することを理解している。 ・株式会社の仕組みについて、理解している。 ・福祉的側面からの指標や環境的側面からの指標、社会的側面からの指標などがあることを理解している。	定期考査	○経済活動とはどのように営まれているのだろうか。限りある資金や資源はどのように選択され、配分されていくのだろうか。 ○3つの経済主体間の経済循環はどのようなものか。市場の効率性と、その限界はどのような点にあるのだろうか。 ○株式会社のしくみにはどのようなものがあるのか。企業がになうべき社会的責任とは何だろうか。 ○経済活動の大きさをはかる指標には何があるのか。それぞれの指標は、どう関係しているのだろうか。 ○経済成長や景気変動の要因とは何か。経済活動の見方であるフローとストックの違いとは何だろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	家庭科
			② 思考・判断・表現 ・市場経済における生産要素の効率的な配分や、政府の適切な施策について多面的・多角的に考察・構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ・景気変動による私たちの生活と企業の成長への影響や、政府による景気安定化政策について多面的・多角的に考察し・構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・よりよい社会の実現を視野に、経済的な効率性と公平性の関係について学習したことを社会生活に生かそうとしている。	授業態度			
9月	第2編1章 7金融の役割 8日本銀行の役割 9財政の役割と租税 10日本の財政の課題	8	① 知識・技能 ・中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解している。 ・財政に求められる機能について理解している。 ・日本の財政の現状と課題について、複数資料の読み取りを通じて理解している。	定期考査	○日本銀行が実施する金融政策の目的は何か。どのような方法で通貨供給量を調整しているのだろうか。 ○経済活動における財政の役割は何か。歳入の柱である租税は、どのようなしくみになっているのだろうか。 ○税制改革とは何か。財政の硬直化が生じる原因とは何か。財政構造改革とはどのような改革なのだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・景気の局面に対処するため、日本銀行がどのような政策をとっているか、企業との関係も含めて多面的・多角的に考察、構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日本の財政の現状と課題を理解したうえで、財政再建について興味関心をもち、歳出減と歳入増の両面から再建のための方策を積極的に追究しながら、「財政健全化のあり方（p.112）」を探究するための意欲を高めている。	授業態度			

9月～10月	第2編2章 1日本経済の成長と課題 2中小企業と農業 3消費者問題 4公害防止と環境保全	8	① 知識・技能 ・戦後復興、高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊などの背景や要因について理解している。 ・農業政策の流れについて理解している。 ・消費者保護基本法から消費者基本法にいたる消費者行政の内容を知り、求められる消費者像の変遷について理解している。 ・政府による公害対策や環境保全のための法整備について理解している。	定期考査	○日本経済は戦後復興をどのようににはたしたのか。1990年代以降の長期不況に対し、どのような対策がとられたのだろうか。 ○日本の中小企業の現状と課題は何か。国際化の影響を受ける農業には、どのような農政が必要なのだろうか。 ○さまざまな消費者問題に、行政や消費者自身はどう対応しているのか。消費者の権利と義務とは何だろうか。 ○公害はなぜ発生するのか。公害防止や環境保全のためには、どのような対策が必要なのだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	家庭科
			② 思考・判断・表現 ・今後の日本経済のあり方について、収集した諸情報にもとづいたうえで、「効率性」と「公平性」といった観点も踏まえながら多面的・多角的に考察し、表現している。 ・循環型社会の実現における課題を見出し、法制度と消費者の観点から協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・今後の日本経済がどのような豊かさを目指していくべきかについて主体的に追究して、よりよい社会の実現を視野に学習したことを社会生活に生かそうとしている。 ・よりよい社会の実現を視野に、消費者問題について学習したことを社会生活に生かそうとしている。 ・日本の公害問題と環境政策に関する理解のもとで、今後の環境問題の解決方法について主体的に追究して、課題を意欲的に解決しようとしている。	授業態度			
10月	第2編2章 5労働問題と労働者の権利 6こんにちの労働問題 7社会保障の役割と課題	8	① 知識・技能 ・労働基本権と労働三法の内容について理解している。 ・日本的雇用形態の特徴を理解しており、また、それらのあり方が崩れてきていることを理解している。	定期考査	○労働者の権利は、どのようにして確立してきたのか。労働基本権を具体化する労働三法とはどのような法律だろうか。 ○日本の伝統的な雇用形態は、どう変化してきたか。職場における人権の課題にはどのようなものがあるのだろうか。 ○社会保障制度は、どのように発展してきたのか。日本の社会保障制度のしくみと課題は何だろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	家庭科
			② 思考・判断・表現 ・どうすれば職場における不当な差別的取り扱いが解消できるのか、多面的に考察している。 ・日本の社会保障制度の現状と課題について、多面的・多角的な観点（少子高齢化、年金制度、負担と給付のバランス）に立ちながら考察し、適切に表現している（p.105／Try）。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・「日本におけるワーク・ライフ・バランスの実現（p.116-117）」を探究するための意欲を高めている。 ・よりよい社会の実現を視野に、学習した内容を社会生活に生かそうとしている。 ・日本の社会保障をめぐる現状と課題を理解したうえで、諸外国の社会保障制度やこれからの日本の社会保障制度について興味関心をもち、「日本における持続可能な福祉社会の実現（p.118-119）」を探究するための意欲を高めている。	授業態度			
11月	第2部 第1編1章 1国際社会と国際法 2国際社会の変化 3国際連合と国際協力 4こんにちの国際政治 5人種・民族問題 6軍拡競争から軍縮へ 7日本の外交と国際社会での役割	10	① 知識・技能 ・主権国家と国際社会の成り立ちについて理解している。 ・国際連盟の成立と崩壊の歴史的経緯について理解している。 ・人種問題について、具体例（公民権運動、アパルトヘイト）を踏まえながら理解している。	定期考査	○国際社会における戦争観や人権の考え方はどう変化したか。国際社会におけるN G Oの役割とは何だろうか。 ○冷戦の終結によって、国際社会はどうか変わったのか。紛争やテロの背景にはどのようなものがあるのだろうか。 ○戦後日本の外交はどう展開されてきたか。日本は国際社会でどのような役割を求められているのだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・国際連合が抱えている課題について、採決や財政の観点などから協働的に考察し、それらを適切に表現している。 ・難民や国内避難民について、どのような援助が必要とされているのかを協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・国際社会における法の支配について主体的に追究し、各国の国益を超えた問題解決に向けて意欲的に考察している。	授業態度			
11月～12月	第2編1章 1貿易と国際収支 2外国為替市場のしくみ	6	① 知識・技能 ・自由貿易のメリットを、比較生産費説をもとに理解している。 ・国際収支の考え方を理解している。	定期考査	○自由貿易や保護貿易の考え方が主張された背景は何か。国際収支は、どのように分類できるのだろうか。 ○外国為替とはどのようなしくみか。為替レートの変動が経済にもたらす影響にはどのようなものがあるだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・日本経済にとって、円高傾向がよいのか円安傾向がよいのかについて、協働的に考察し、それらを適切に表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・自由貿易を推進するメリットと、近年先進国が保護貿易的な動きを見せていることについて主体的に追究し、望ましい貿易のあり方を意欲的に探究しようとしている。	授業態度			

12月	第2編2章 1第二次世界大戦後の国際経済 2国際経済の動向 3新興国の台頭 4経済のグローバル化とICTでかわる世界経済	8	① 知識・技能 ・世界経済が密接に関連しあい、グローバル・バリューチェーンを形成していることを理解している。 ② 思考・判断・表現 ・公正な国際貿易体制とはどのようなものか、協働的に考察し、それらを適切に表現している（p. 141／Try）。 ・グローバリゼーションがもたらすメリットとデメリットにはどのようなものがあるか、多面的に考察している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・公正な国際貿易体制のあり方について主体的に追究し、各国が従うべき貿易のルール作りに関する課題を意欲的に解決しようとしている。	定期考査 レポート 授業態度	○自由貿易や保護貿易の考え方が主張された背景は何か。国際収支は、どのように分類できるのだろうか。 ○戦後のIMF体制は、どのように変遷したか。貿易自由化をめざすWTOがかかえる課題は何だろうか。 ○グローバル化の進展は、経済や社会にどのような影響を及ぼしたのだろうか。どのような課題が生じているのだろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
1月	第2編2章 5発展途上国の課題と展望 6地球環境問題、資源エネルギー問題 7経済協力と日本の役割	8	① 知識・技能 ・南北問題について、その背景と現状について理解している。 ・パリ協定やSDGsの目標をめぐる現状と課題について理解している。 ② 思考・判断・表現 ・日本のODAの特徴と課題はどのようなものか、資金の用途や貸与方式などの観点から協働的に考察し、適切に表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・世界の貧困状況やそれを解消するための取り組みについて興味関心をもち、「国際経済格差の是正（p. 160）」を探究するための意欲を高めている。	定期考査 レポート 授業態度	○南北問題の解決に向け、発展途上国はどのように対応してきたのか。南南問題とはどのようなものだろうか。 ○化石燃料はなぜ大量消費されるのか。大量消費にともなう課題の解決に向け、どのような取り組みが進んでいるのだろうか。 ○貧困や飢餓の問題に対して、先進国や国連はどう対応しているか。日本のODAの現状と課題は何だろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
2月～3月	第3編 国際社会における諸課題の探究	7	① 知識・技能 ・各課題の解決に向けた考察・構想に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 ・社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。	定期考査 レポート 授業態度	・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述させる。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(思考力、判断力、表現力等) ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
数学A		3	全日制・普通科・3年(Ⅰ類)		最新 数学A(数研出版)		
科目の目標		図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 2週	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合 2. 集合の要素の個数	3	① 知識・技能 ・和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。 ・具体的な日常の事象に対して、集合を考えることで、人数などを求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。 ・表を作って集合の要素の個数を求める方法に興味を示し、それを利用しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
4月 3週 ～ 4週	3. 樹形図、和の法則、積の法則	6	① 知識・技能 ・樹形図を用いて、場合の数をもれなくかつ重複なく数えることができる。 ・和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 ・自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・道順の数え方に興味を示し、樹形図、和の法則や対称性などによる場合の数の数え方に関心をもつ。 ・自然数の正の約数の個数を数えること、式の展開を利用して約数が列挙できることに興味を示す。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
5月 1週 ～ 4週	4. 順列 5. 円順列と重複順列 6. 組合せ	10	① 知識・技能 ・順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できる。 ・組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。 また、組合せの公式を理解し、利用することができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・条件が付く順列、円順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ・既知である順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。 ・順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。 ・重複組合せについて理解し、その総数を、順列や組合せの考えを適切に用いて求めようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
5月 4週 ～ 6月 2週	第2節 確率 7. 確率の意味 8. 確率の計算 9. 確率の基本性質 10. 和事象の確率 11. 余事象の確率	10	① 知識・技能 ・確率の意味、試行や事象の定義を理解している。 ・積事象、和事象の定義を理解している。 ・確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・試行の結果を事象として捉え、事象を集合と結びつけて考察することができる。 ・集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・1個のさいころを繰り返し投げる実験などを通して、統計的確率と数学的確率の違いに興味・関心をもつ。 ・加法定理や余事象を利用する考え方などを利用して、複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
6月 3週 ～ 7月 1週	12. 独立な試行の確率 13. 反復試行の確率 14. 条件付き確率	9	① 知識・技能 ・独立な試行の確率や反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。 ・条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 既習の確率と条件付き確率の違いについて、図や表などを用いて考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。 ・条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			

7月 2週	15. 期待値	3	① 知識・技能 ・期待値の定義を理解し、期待値を求めることができる。 ② 思考・判断・表現 ・結果が不確実な状況下において、どの選択が合理的かを判断する基準として、期待値の考えを用いて考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日常の事象における不確実な事柄について判断する際に、期待値を用いて比較し、考察しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 レポート	
7月 3週 ～ 9月 1週	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 1. 角の二等分線と比 2. 三角形の外心・内心・重心	6	① 知識・技能 ・定理を適切に利用して、線分の比や長さを求めることができる。 ・三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。 ② 思考・判断・表現 ・図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる。また、適切な補助線を引いて考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・線分を内分・外分する点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。 ・三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
9月 2週	3. チェバの定理・メネラウスの定理	3	① 知識・技能 ・チェバの定理、メネラウスの定理を理解している。 ・チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比を求める問題に活用できる。 ② 思考・判断・表現 ・チェバの定理、メネラウスの定理について、論理的に考察し、証明することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・チェバの定理、メネラウスの定理に興味を示し、積極的に考察しようとする。 ・三角形の辺と角の大小関係という明らかに見える性質を、論理的に考察しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
9月 3週 ～ 4週	第2節 円の性質 4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形	4	① 知識・技能 ・円周角の定理と円周角の定理の逆を理解している。 ・円に内接する四角形の性質を利用して、角度を求めることができる。 ② 思考・判断・表現 ・円に内接する四角形の性質について、論理的に考察することができる。 ・円に内接する四角形の性質に着目し、逆に、四角形が円に内接するための条件について論理的に考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・三角形の外接円は必ず存在するが、三角形以外の場合は必ずしも存在しないことから、四角形が円に内接する条件を考察しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
9月 4週 ～ 10月 3週	6. 円と直線 7. 接線と弦のつくる角 8. 方べきの定理 9. 2つの円	9	① 知識・技能 ・円の接線の性質や接線と弦の作る角の性質を利用して、線分の長さや角度を求めることができる。 ・方べきの定理を利用して、線分の長さなどを求めることができる。 ・2つの円が内接しているとき成り立つ性質を利用して角度を求めることができる。 ② 思考・判断・表現 ・円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 ・2つの円を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・相似を利用した方べきの定理の導き方に興味・関心をもつ。 ・2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
10月 3週 ～ 4週	第3節 作図 10. 基本の作図 11. いろいろな作図	3	① 知識・技能 ・中学校で学んだ垂線の作図を知っている。 ・線分の内分点・外分点の作図や、b/aやabの長さをもつ線分の作図ができる。 ② 思考・判断・表現 ・平行線と線分の比の性質を利用して、内分点・外分点の作図の方法や、b/aやabの長さをもつ線分の作図の方法を考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・数学で扱う作図と、日常において図形をかくことでは、何が違うか考えてみようとする。 ・コンピュータなどの情報機器を積極的に用いるなどして、作図の方針を立てようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
10月 4週 ～ 11月 2週	第4節 空間図形 12. 空間における直線と平面 13. 多面体	8	① 知識・技能 ・空間における2直線の位置関係やなす角を理解している。 ・正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。 ② 思考・判断・表現 ・空間における直線と平面が垂直、平行になるための条件を、与えられた立体に当てはめて考察することができる。 ・正多面体の満たす条件を理解し、正多面体から切り取った立体がまた正多面体であることを示すことができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・空間における図形の位置関係について、積極的に考えてみようとする。 ・オイラーの多面体定理がどんな凸多面体でも成り立つかどうか調べてみようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	

11月 3週	第3章 数学と人間の活動 1 約数と倍数 1. 約数と倍数	3	① 知識・技能 ・約数・倍数の意味を理解している。 ・いろいろな数の倍数の判定法を理解している。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・4の倍数の判定法から類推して、8の倍数の判定法を考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。 ・いろいろな数の倍数の判定法について調べようとする態度がある。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
11月 4週 ～ 12月 1週	2. 素数と素因数分解	8	① 知識・技能 ・自然数の素因数分解を求めることができる。 ・素因数分解を利用して最大公約数・最小公倍数を求める方法を理解している。 ・互いに素の意味を理解している。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・「エラトステネスのふるい」を使うことによって得られた数字の並びから、素数についてどのようなことが成り立つかを考察することができる。 ・身近な事象について数学的に捉え、最大公約数・最小公倍数との関係について考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・数学史に興味・関心をもち、素数と素因数分解について学ぼうとする態度がある。 ・暗号技術に素因数分解の考えが活用されていることに、興味・関心をもつ。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
12月 2週 ～ 1月 2週	3. 整数の割り算	8	① 知識・技能 ・整数aを正の整数bで割る割り算を、aとbの間に成り立つ等式として捉えることができる。 ・互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 レポート	
			② 思考・判断・表現 ・問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。 ・長方形を正方形で敷き詰める操作で辺の長さを有理数、無理数の範囲まで拡張することで $\sqrt{2}$ が無理数であることを証明できることについて考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・数学史の話題を通じて、割り算の方法や割り算の余りの性質に興味・関心をもつ。 ・素因数分解をしなくても、互除法によって最大公約数が求められることに興味・関心をもつ。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
1月 2週 ～ 1月 3週	2 1次不定方程式 1. 最大公約数 2. ユークリッドの互除法 3. 1次不定方程式	5	① 知識・技能 ・1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・天秤ばかりのつり合いや油分け算などの日常的な問題について、1次不定方程式と関連付けて考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・互除法を利用するなどして、条件を満たす2数の組を求める方法に興味・関心をもつ。 ・天秤ばかりのつり合いや油分け算などの日常的な問題について、1次不定方程式と関連付けて考察しようとする態度がある。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
1月 3週 ～ 4週	3 記数法 1. 古代の記数法 2. 現代の記数法	3	① 知識・技能 ・記数法、10進法、2進法、n進法について理解している。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 プレゼンテーション	情報科
			② 思考・判断・表現 ・現代の記数法を古代の記数法と比較し、特徴を説明することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・コンピュータなどの身近な物に、n進法の考え方が活用されていることに興味・関心をもつ。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
1月 4週	4 座標の考え方 1. 平面上の点の位置 2. 空間上の点の位置	1	① 知識・技能 ・地上における特定の地点を、座標平面上の点と捉えて位置を座標で表現できる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・座標平面上の点の位置を特定するために、条件から図形の性質に着目し、適切な定理を利用して考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・平面上の点の位置に関する問題を、座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。 ・カーナビゲーションによる自動車の位置の特定において、座標の考えが活用されていることに興味・関心をもつ。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
1月 5週	5 ゲーム・パズルの中の数学 1. ゲームの中の数学 2. パズルの中の数学	3	① 知識・技能 ・三目並べのルールを理解している。 ・魔方陣のルールを理解している。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 レポート	
			② 思考・判断・表現 ・ゲームの設定を多面的かつ論理的に考え、ゲームで勝つ方法を導くことができる。 ・魔方陣の構造を考察し、成り立つと推察される性質について実際に成り立つことを証明できる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ゲームで勝つ方法やパズルの仕組みなどを、論理的に考察しようとする。 ・自国だけではなく、他国のゲームにも興味・関心をもち、他国の文化への理解を深めようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 授業において、基礎学力の確実な習得を目指す。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 課題について自ら考えたとともに、実験を通して科学的に考える力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 他者との学び合いの中で、自分の考えを表現する力を育む。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
物理基礎		3	全日制・普通科・3学年		高等学校 新物理基礎(第一学習社)		
科目の目標		(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験など関するする基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 (3)物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	第1章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 1速さ 2等速直線運動 3変位と速度 4速度の合成・相対速度	9	① 知識・技能 ・速さと速度の違いが理解でき、数直線上の速度の合成と相対速度の計算ができる。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集	・ 例題 ・ 問題演習	身の回りにある速度の合成や相対速度を出し合い、共有する。	数学
			② 思考・判断・表現 ・物体の速度とそれによる移動距離の関係が説明できる。	・ 考査 ・ 授業ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにある運動の速度の合成や相対速度に関して興味関心をもち、もっと知ろうとする。	・ 授業ノート ・ グループワーク			
5月	第1章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 5加速度 6等加速度直線運動(1) 7等加速度直線運動(2) 8重力加速度と自由落下 9鉛直投射 10水平投射	10	① 知識・技能 ・物体の運動に速度、加速度と移動距離の関係を理解できている。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	身の回りにある加速度を持つ物体の移動距離についてグループで話し合い、共有する。	数学
			② 思考・判断・表現 ・加速度と移動距離の関係を理解して、式で説明することができる。	・ 考査 ・ 授業ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにある加速度を持つ物体の移動距離について興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動			
6月	第1章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則 1力と運動 2いろいろな力 3力の合成・分解 4力のつり合い 5作用・反作用	10	① 知識・技能 ・ベクトルを利用した力の表記方法を理解して、実際にベクトルの記述ができる。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	身の回りにある力のつり合いや、作用・反作用の関係にある力を出し合い、全員で共有する。	数学
			② 思考・判断・表現 ・同じ逆向きの力でも“力のつり合い”と“作用・反作用”の区別がつき、説明することができる。	・ 考査 ・ 授業ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにある力の力のつり合いや作用・反作用について興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動			
7月	第1章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則 6慣性の法則 7力と質量と加速度の関係(1) 8力と質量と加速度の関係(2) 9運動の法則 10摩擦力 11流体から受ける力	10	① 知識・技能 ・物体の運動方程式を立てることができる。またこれを用いて、物体の加速度を計算することができる。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	身も周りにある物体の運動について運動方程式を立てて、全員で共有する。	数学
			② 思考・判断・表現 ・物体にかかる力や方向を判断し、自分で運動方程式を立てることができる。	・ 考査 ・ 授業ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにある物体の運動方程式に興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動			
9月	第1章 運動とエネルギー 第3節 仕事と力学的エネルギー 1力がする仕事 2仕事の原理と仕事率 3運動エネルギー 4重力による位置エネルギー 5弾性力による位置エネルギー 6力学的エネルギー(1) 7力学的エネルギー(2)	12	① 知識・技能 ・物体にかかる仕事について計算することができる。また、仕事率の計算もすることができる。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 実験 ・ 発表	身の回りにある物体の力学的エネルギーを求めて、全員で共有する。	数学
			② 思考・判断・表現 ・運動エネルギーや位置エネルギーについて理解しており、説明することができる。	・ 考査 ・ 授業ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの物体の力学的エネルギーについて興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 実験			
10月	第II章 熱 第1節 熱とエネルギー 1温度と熱運動 2熱と熱平衡 3熱量の保存 4物質の三態	12	① 知識・技能 ・熱について理解できている。また、熱容量と比熱の関係が理解できている。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 実験 ・ 発表	身の回りにある物体の暖まり方、熱容量や比熱との関係について議論し、その結果を共有する。	数学
			② 思考・判断・表現 ・潜熱を含めて、物体に熱量を加えたときの物体の温度を求めることができる。また、その理由を説明できる。	・ 考査 ・ 授業ノート			

	5熱と仕事 6エネルギーの変換と保存		③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにある物体に関して、温まりやすさや熱容量、比熱の関係について興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・授業ノート ・グループワーク ・実験			
11月	第Ⅲ章 波動 第1節 波の性質 1波と振動 2波の表し方 3横波と縦波 4波の重ね合わせ 5定常波 6波の反射 第2節 音波 1音の速さと3要素 2波としての音の性質 3弦の固有振動 4気柱の固有振動	11	① 知識・技能 ・波の性質について理解できている。また、縦波と横波の区別をつけることができる。 ② 思考・判断・表現 ・波が重なると、どのような形になるかを説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにある物で、波の性質をもつものなどに興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・考査 ・授業ノート ・問題集 ・考査 ・授業ノート ・授業ノート ・グループワーク ・実験	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・実験 ・発表	身の回りにある波の性質を持つ物をあげてもらい、全員で共有する。	数学
12月	第Ⅳ章 電気 第1節 電荷と電流 1電荷 2電流と電気抵抗 3物質と抵抗率 4抵抗の接続 5電力量と電力 第2節 電流と磁場 1磁場 2モーターと発電機 3交流の発生と利用 4電磁波	11	① 知識・技能 ・電流、電圧、抵抗の関係を理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・直列や並列の繋ぎ方で電流、電圧の値が変化することが説明することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにある電気の流れの電流、電圧の値などに興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・考査 ・授業ノート ・問題集 ・考査 ・授業ノート ・授業ノート ・グループワーク ・実験	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・実験 ・発表	身の回りにあるコンセントなどが直列つなぎなのか並列つなぎなのか議論し。その結果を共有する。	数学
1月 ～ 3月	第Ⅳ章 電気 第3節 エネルギーとその利用 1太陽エネルギーの利用 2原子核と放射線 3原子力とその利用	20	① 知識・技能 ・いろいろな種類の発電の方法について理解する。 ② 思考・判断・表現 ・いろいろな種類の発電の方法について、何からエネルギーを得ているのかを説明することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにある電気や放射線などについて興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・考査 ・授業ノート ・問題集 ・考査 ・授業ノート ・授業ノート ・グループワーク	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・実験 ・発表	グループでいろいろな発電方法について調べ、その結果を発表する。	数学
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
体育		3	全日制・普通科・3学年		現代高等保健体育(大修館書店)		
科目の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 第2週 ～ 5月 第1週	体づくり運動	10	① 知識・運動 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。 健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。	観察 学習カード	・ 個別の運動実践 ・ 課題の整理 (個別) ・ 運動計画の作成 (グループワーク) ・ 計画の発表 ・ 計画の実践	・ 意義・原則等を理解し説明する。 ・ 自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・ 自分の考えやグループの考えを発展させる。 ・ 他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・ 体育理論(豊かなスポーツライフの設計の仕方) ・ 保健(精神疾患の予防と回復) ・ 家庭基礎(生涯の生活設計)
			② 思考・判断・表現 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、話し合いに貢献しようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
5月 第2週 ～ 6月 第1週	球技 (ネット型) ・卓球 ・バドミントン ・バレー	13	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	テスト 観察	・ 個人練習 ・ 課題の整理 (ペアワーク) ・ 練習計画の作成 (ペアワーク) ・ 計画の発表 ・ 計画の実践 ・ 知識テスト ・ リーグ戦運営	・ 技術を解釈し説明する。 ・ 自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・ 自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・ 他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・ 体育理論(運動やスポーツの効果的な学習の仕方)
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い教え合おうとし、ことなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
6月 第2週 ～ 7月 第2週	球技 (ゴール型) ・バスケットボール ・サッカー	13	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	テスト 観察	・ 個人練習 ・ グループ練習 ・ 課題の整理 (グループワーク) ・ 練習計画の作成 (ペアワーク) ・ 計画の発表 ・ 計画の実践 ・ 知識テスト ・ リーグ戦運営	・ 技術を解釈し説明する。 ・ 自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・ 自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・ 他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・ 体育理論(運動やスポーツの効果的な学習の仕方)
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、作戦などについての話し合いに貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い教え合おうとし、ことなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			

7月 第3週	体育理論 (豊かなスポーツライフの設計) ・生涯スポーツの見方・考え方 ・ライフスタイルにおうじたスポーツ	3	① 知識・運動 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	ワークシート テスト	・講義 ・ワークシート作業 (課題の整理) (発表) ・小テスト	・事実を正確に理解し伝達する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・保健 (医薬品)
			② 思考・判断・表現 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	ワークシート 観察			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んでいる。	ワークシート 観察			
9月 第1週 ～ 10月 第1週	ダンス ・現代的リズムのダンス	13	① 知識・運動 ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解している。 リズムの特徴を強調して、全身で自由に踊ったり、変化とまとまりをつけて仲間と対応したりして踊ることができる。	テスト 観察	・ペアワーク ・グループワーク ・発表	・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論 (豊かなスポーツライフの設計の仕方)
			② 思考・判断・表現 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
10月 第2週 ～ 11月 第1週	陸上競技	12	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 自己に適したペースを維持して走ることができる。	観察 学習カード	・グループワーク ・練習計画の作成	・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論 (豊かなスポーツライフの設計の仕方)
			② 思考・判断・表現 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
11月 第2週 ～ 12月 第3週	球技 (ネット型) ・卓球 ・バドミントン ・バレー	20	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	テスト 観察	・個人練習 ・課題の整理 (ペアワーク) ・練習計画の作成 (ペアワーク) ・計画の発表 ・計画の実践 ・知識テスト ・リーグ戦運営	・技術を解釈し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論 (運動やスポーツの効果的な学習の仕方)
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
1月 第2週	体育理論 (豊かなスポーツライフの設計) ・日本のスポーツ振興 ・スポーツと環境	3	① 知識・運動 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	ワークシート テスト	・講義 ・ワークシート作業 (課題の整理) (発表) ・小テスト	・事実を正確に理解し伝達する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・保健 (医薬品)
			② 思考・判断・表現 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	ワークシート 観察			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んでいる。	ワークシート 観察			

1月 第3週 ～ 3月 第3週	球技 (ゴール型) ・バスケットボール ・サッカー	18	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	テスト 観察	・個人練習 ・グループ練習 ・課題の整理 (グループワーク) ・練習計画の作成 (ペアワーク) ・計画の発表 ・計画の実践 ・知識テスト ・リーグ戦運営	・技術を解釈し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論(運動やスポーツの効果的な学習の仕方)
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、作戦などについての話合いに貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い教え合おうということなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。（知識及び技能） ○創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） ○生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。（学びに向かう力、人間性）
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名（出版社）		
音楽実技A		2	全日制課程・普通科・3学年				
科目の目標		1 音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、創造的に表現するために必要な技能を身につけるようにする。（知識及び技能） 2 音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確に持つことができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） 3 音楽に関する専門的な学習に主体的に取り組み、感性を磨き、音楽性豊かな表現を追究する態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	○右手・左手の奏法を学ぼう	8	① 知識・技能 ・鍵盤の仕組みや右手・左手の奏法について理解している。 ・ピアノ演奏をするために必要な、読譜力や体の使い方などの技能を身につけ、表している。 ② 思考・判断・表現 ・リズム、速度、音色を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことから感受したこととの関わりについて考え、表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ピアノの基本的な奏法について考え、音楽性豊かな表現を追求することに関心を持ち、ピアノ演奏の活動に主体的に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・受講者のレベルに合わせて作成したプリントを用いて右手、左手の奏法について学ぶ。 ・音符、休符、音部記号、拍子、変化記号、反復記号といった読譜の基礎知識を学ぶ。		
5月	○両手でピアノを弾こう	8	① 知識・技能 ・両手を合わせて演奏する奏法について理解している。 ・ピアノ演奏をするために必要な読譜力や体の使い方などの技能を身につけ、表している。 ② 思考・判断・表現 ・リズム、速度、音色を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことから感受したこととの関わりについて考え、表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ピアノの基本的な奏法について考え、音楽性豊かな表現を追究することに関心を持ち、ピアノ演奏の活動に主体的に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・受講者のレベルに合わせて作成したプリントを用いて両手でピアノを弾く奏法について学ぶ。 ・速度記号、音楽記号・用語について理解を深める。		
6月	○歌唱の基本を学ぼう	8	① 知識・技能 ・歌唱する際の体の使い方、発声などの基本について理解している。 ・豊かな歌唱表現をするために必要なふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表している。 ② 思考・判断・表現 ・リズム、旋律、音色を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことから感受したこととの関わりについて考え、表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・歌唱表現の基本について考え、表現意図を持って歌うことに関心を持ち、主体的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・基本的な発声について学ぶ。 ・受講者の進路や嗜好に合わせて選択した曲を用いて、読譜力およびソルフェージュ力を向上させる。		
7月	○童謡を弾こう	8	① 知識・技能 ・ピアノの奏法、読譜について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な曲に相応しい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、演奏で表している。 ② 思考・判断・表現 リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことから感受したこととの関わりを考え、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ピアノの奏法を理解して演奏することに関心を持ち、主体的・対話的にピアノ演奏の学習活動に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・童謡、幼児用の楽曲プリント等を用いて、保育現場で使用する楽曲の伴奏を演奏する。	・互いに演奏を発表し合い、改善点や反省点を話し合う。	
9月	○童謡を歌おう	8	① 知識・技能 ・曲想と音楽の構造や歌詞について理解している。 ・豊かな歌唱表現をするために必要なふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表している。 ② 思考・判断・表現 ・旋律、リズム、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことから感受したこととの関わりについて考え、表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・歌唱表現の工夫について考え、表現意図を持って歌うことに関心を持ち、主体的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・童謡、幼児用の楽曲プリント等を用いて、保育現場で使用する楽曲を歌う。	・互いに演奏を発表し合い、改善点や反省点を話し合う。	
10月～ 11月	○高度な楽曲を弾こう	16	① 知識・技能 ・ピアノの高度な奏法、読譜について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な曲に相応しい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、演奏で表している。 ② 思考・判断・表現 リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことから感受したこととの関わりを考え、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ピアノの奏法を理解して演奏することに関心を持ち、主体的・対話的にピアノ演奏の学習活動に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・受講者のレベルに合わせた様々なジャンルのピアノ曲を用いて、両手のやや高度で複雑な楽曲を演奏する。 ・楽曲に出てくる音符の特徴や運指の特徴について学ぶ。		
12月～ 1月	○演奏会を開こう	14	① 知識・技能 ・ピアノ演奏および歌唱における奏法や音楽の構造について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な曲に相応しい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、演奏で表している。 ② 思考・判断・表現 リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことから感受したこととの関わりを考え、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 表現を工夫して弾き歌いをするに関心を持ち、主体的・対話的に学習活動に取り組もうとしている。	・発言 ・実技演奏 ・発言 ・演奏 ・授業観察	・進路に合わせた教材を各々が選択し、学習、練習、演奏する。完成度を高め、発表の場を設け、互いの演奏を鑑賞する。	・互いに演奏を発表し合い、改善点や反省点を話し合う。	
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○英語表現の理解を深め、場面に応じた英語を使用することができる(知識及び技能) ○文法や語いの知識を深め、様々な英語表現を使いこなすことができる(思考力、判断力、表現力等) ○異文化への興味・関心を高め、コミュニケーションの基礎を養う(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
英語コミュニケーションⅢ	3	全日制・普通科・3学年(Ⅰ類)	VISTA English CommunicationⅢ(三省堂)

CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標	聞くこと(L) :何が話題とされているかを理解し、情報や考えなどの要旨を理解することができる。 読むこと(R) :教科書本文の大まかな内容をつかむことができる。 話すこと[やりとり](SI) :相槌などの話し方を意識しながら身近な話題について意見を交換することができる。 話すこと[発表](SP) : 原稿などの準備をした上で、まとまった量のスピーチをすることができる。 書くこと(W) :自分のことについて理由や根拠を挙げて2～3文程度の英文を書くことができる。
-----------------------------	--

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	LESSON 1 English as an International Language	10	・世界の英語について、理解して考えを深めることができる。 ・ごみ収集の掲示内容や使い方についてやりとりしたり、英語について自分が思うことについて書いて発表することができる。 ・be動詞・一般動詞に関する事項を理解している。何かを勧めるときの表現を理解している。	・英語の歴史や米英での違いなどについての対話から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 ・〈be動詞・一般動詞〉の使い方を確認する。 ・〈be動詞・一般動詞〉を使って、英語について自分が思うことを、書いて発表する。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
5月	LESSON 2 Digital Art	10	・日々進歩するデジタル技術やデジタルアートについて、理解して考えを深めることができる。 ・生活を便利にするデジタル技術やデジタル機器について書いて発表することができる。 ・現在完了形に関する事項を理解している。相手に賛成するときの表現を理解している。	・デジタルアートについての発表から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 ・〈現在完了形〉の使い方を確認する。 ・〈現在完了形〉を使って、生活を便利にしたデジタル技術・機器について、書いて発表する。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	芸術、情報科
6月	LESSON 3 Sports Unite People for Peace	11	・南スーダンでスポーツが平和な国づくりに果たしている役割について、理解して考えを深めることができる。 ・スポーツと平和の関係／外国人を交えた地域社会の活性化についてやりとりしたり、平和な国づくりに必要だと思うことについて書いて発表することができる。 ・受け身に関する事項を理解している。質問を始めるときの表現を理解している。	・南スーダンのスポーツと平和に関する記事を読んで、その内容について、書いて要点をまとめたり、聞いて確認したりする。 ・〈受け身〉の使い方を確認する。 ・〈受け身〉を使って、平和な国づくりに必要だと思うことを、書いて発表する。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
7月	LESSON 4 Let's Have a Picnic!	10	・ピクニックの歴史や健康効果について、理解して考えを深めることができる。 ・健康法／健康への日光の影響についてやりとりしたり、海外の食文化について書いて発表することができる。 ・動名詞・不定詞に関する事項を理解している。相手への同意を表すときの表現を理解している。	・ピクニックの歴史や効用の説明を読んで、その内容について、書いて要点をまとめたり、聞いて確認したりする。 ・〈動名詞・不定詞〉の使い方を確認する。 ・〈動名詞・不定詞〉を使って、海外の食文化について、書いて発表する。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
9月	LESSON 5 Dresden Elbe Valley	11	・ドレスデン・エルベ渓谷／世界遺産の価値と生活の関係について、理解して考えを深めることができる。 ・エルベ川の橋の建設可否／UNESCOの世界遺産を巡る決定についてやりとりしたり、自分が訪れたい世界遺産について書いて発表することができる。 ・関係代名詞・関係副詞に関する事項を理解している。反対するときの表現を理解している。	・世界遺産だったドレスデン・エルベ渓谷に関する会話を読んで、その内容について、書いて要点をまとめたり、聞いて確認したりする。 ・〈関係代名詞・関係副詞〉の使い方を確認する。 ・〈関係代名詞・関係副詞〉を使って、訪れたい世界遺産について、書いて発表する。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
10月	LESSON 6 Flowers from Life	11	・「いのちの花プロジェクト」とその活動に込められた高校生たちの思いについて、理解して考えを深めることができる。 ・動物の世話／ペットの殺処分の課題とその解決策についてやりとりしたり、高校生活で印象に残っている活動について書いて発表することができる。 ・名詞を修飾する分詞に関する事項を理解している。グラフや統計を引用紹介するときの表現を理解している。	・校内英字新聞に載っている卒業生の話を読んで、その内容について、書いて要点をまとめたり、聞いて確認したりする。 ・〈名詞を修飾する分詞〉の使い方を確認する。 〈名詞を修飾する分詞〉を使って、高校生活で印象に残っている活動について、書いて発表する。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	

11月	LESSON 7 Global Refugee Crisis	11	・ 難民問題の実態と世界における対応について、理解して考えを深めることができる。 ・ 解決すべき世界的課題／難民問題の解決策についてやりとりしたり、プレゼンテーションの内容について書いて発表したりすることができる。 ・ 比較級・最上級に関する事項を理解している。話の内容を弱める表現を理解している。	・ 世界の難民に関する発表を読んで、その内容について、書いて要点をまとめたり、聞いて確認したりする。 ・ 〈比較級・最上級〉の使い方を確認する。 ・ 〈比較級・最上級〉を使って、誰のプレゼンテーションに興味を持ったかについて、意見を書いて発表する。	・ 活動の観察 ・ 小テスト(パート毎) ・ 定期考査 ・ Writing課題 ・ 音読テスト	社会科
12月	LESSON 8 Dream Bigger, Go Farther	10	・ 植松努さんのスピーチについて、理解して考えを深めることができる。 ・ 宇宙に行ったらしてみたいこと／これからの社会に必要な社会人として持つべき能力についてやりとりしたり、英語を学ぶことと自分の夢とのつながりについて書いて発表したりすることができる。 ・ 形式主語 it に関する事項を理解している。発言を強めるときの表現を理解している。	・ 夢や成功に関するスピーチを読んで、その内容について、書いて要点をまとめたり、聞いて確認したりする。 ・ 〈形式主語 it〉の使い方を確認する。 ・ 〈形式主語 it〉を使って、英語を学ぶことと自分の夢とのつながりについて、考えを書いて発表する。	・ 活動の観察 ・ 小テスト(パート毎) ・ 定期考査 ・ Writing課題 ・ 音読テスト	
1月	ENJOY READING! 1 The Little Prince	10	・ 王子さまのさまざまな出会いを描く物語について、理解して考えを深めることができる。 ・ 物語について、王子さまが私たちに伝えるメッセージを考えて、書いたり発表することができる。	・ 『星の王子さま』の物語から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 ・ 『星の王子さま』の物語について、自分にとっての “rose” は何か、もしくは将来どんな “rose” に出会いたいのか、考えを書いて、クラスで発表する。	・ 活動の観察 ・ 小テスト(パート毎) ・ 定期考査 ・ Writing課題 ・ 音読テスト	
2月	ENJOY READING! 2 After Twenty Years	11	・ 『20年後』の物語について、理解して考えを深めることができる。 ・ 物語について、理解を深め、感想を書いたり発表することができる。	・ O・ヘンリー『20年後』の物語から、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 ・ O・ヘンリー『20年後』の物語から、もし自分が Jimmy Wells だったら、Bob が指名手配犯だと分かったとき、どうするか、自分の考えを書いてクラスで発表する。	・ 活動の観察 ・ 小テスト(パート毎) ・ 定期考査 ・ Writing課題 ・ 音読テスト	
指導時間数の計		105				

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	○英語表現の理解を深め、場面に応じた英語を使用することができる(知識及び技能) ○文法や語いの知識を深め、様々な英語表現を使いこなすことができる(思考力、判断力、表現力等) ○異文化への興味・関心を高め、コミュニケーションの基礎を養う(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
実用英語		2	全日制・普通科・3学年			
CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標		聞くこと(L)：ペアやグループにおいて、相手の意見にしっかり耳を傾けることができる。 読むこと(R)：すでに習った単語で書かれた短い英文の内容を理解することができる。 話すこと[やりとり](SI)：すでに習った表現を用いて、複数回の英語でのやりとりのある会話を行うことができる。 話すこと[発表](SP)：身近な話題について、準備をした上で簡単なスピーチを行うことができる。 書くこと(W)：与えられた動詞に注目し、説明を加えながら身近な内容について書くことができる。				
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指 導 時 数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 2週目	基礎の定着学習	3	・数字、文字、品詞を理解する。 ・質問する、共感する/学校での学習や活動、地域での活動			
4月 2週～4週目	be動詞と一般動詞	5	・be 動詞、一般動詞の現在形を理解する。 ・質問する、理由を述べる、説明する、相づちを打つ。	お気に入りの場所についてやり取りをしたり、まとめたものを発表する。	be動詞・一般動詞の現在形を理解し、概要や要点を捉える技能を身につけている。	
5月 1週～2週目	過去形	4	・be 動詞、一般動詞の過去形を理解する。 ・質問する、理由を述べる、説明する、感謝する。	日常生活についてやりとりをしたり、大切にしている人についてまとめて発表したりする。	be動詞、一般動詞の過去形を用いて、日常生活について考えや気持ちを話して伝えている。	
5月3週～4週目	助動詞、現在進行形	4	・進行形/助動詞を理解する。 ・質問する、理由を述べる、説明する、共感する、描写する/学校での学習や活動	コンピュータの使い方や得意なことについてやり取りしたり、写真についてまとめて発表したりする。	進行形や助動詞を理解し、概要や要点を捉える技能を身につけている。	
6月 1週～2週目	be動詞、一般動詞、助動詞	4	・be動詞、一般動詞、進行形、助動詞を復習する。 ・質問する、理由を述べる、説明する、描写する、聞き直す。	好きなスポーツ選手や好きな有名人についてやりとりをしたり、自己紹介などをする。		
6月 3週～4週目	不定詞	4	・不定詞を理解する。 ・質問する、理由を述べる、説明する、相づちをうつ、描写する。	不定詞を用いて、好きな動物について、考えや気持ちを話して伝えている。	不定詞を用いて、好きな動物について、考えや気持ちを話して伝えている。	
7月 1週～3週目	動名詞	6	・動名詞を理解する。 ・質問する、理由を述べる、説明する、共感する、推論する、仮定する。	健康や空いた時間についてやり取りしたり、写真を参考にして、自分の考えをまとめて発表したりする。	動名詞を用いて、健康に関することや空いた時間について考えや気持ちを伝えようとしている。	
9月1週～2週目	比較	4	・比較（原級、比較級、最上級）を理解する ・質問する、理由を述べる、説明する、提案する、共感する。	好きな教科について描かれたイラストについてやり取りしたり、学科や倶楽部についてまとめて発表したりする。	比較を用いて、学校での生活について、考えや気持ちを話して伝えている。	
9月3週目	不定詞、動名詞、比較の確	4	・不定詞、動名詞、比較を復習する。 ・質問する、理由を述べる、説明する。	好きな音楽や日常生活で楽しんでいることについてやりとりをする。		
9月4週目	疑問文など	4	・質問する、説明する、提案する、承諾する、望む、依頼する、助言する、話題を発展させる、買い物	買い物の場面で客と店員とのやり取りをする。	買い物の場面で考えや気持ちを話して伝えようとしている。	
10月1週目～3週目	現在完了形	6	・現在完了形を理解する。 ・質問する、理由を述べる、説明する、報告する	相手の生活面や経験などについてやり取りをしたり、セレンディピティについてまとめたり、発表したりする。	現在完了を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付けている。	
10月4週目～11月2週目	受動態	6	・受動態を理解する。 ・質問する、理由を述べる、感謝する、褒める、説明する。	服装や平和のシンボルについてやり取りをしたり、大切なものについてまとめて発表したりする。	受動態を用いて、だれかからもらった大切なものについて考えや気持ちを話して伝えている。	
11月3週目～12月3週目	分詞	10	・分詞の形容詞的用法を理解する。 ・質問する、理由を述べる、説明する、共感する、賛成する。	好きな俳優や映画についてやり取りしたり、それらをまとめて発表したりする。	分詞の形容詞的用法を理解し、概要や要点を捉える技能を身につけている。	
1月2週～4週目	関係代名詞	6	・関係代名詞を理解する。 ・質問する、理由を述べる、説明する、共感する、話題を発展させる、驚く	好きな飲み物や平和に寄与した有名人、将来の夢などについて、やり取りしたり、水分の摂り方についてまとめて発表したりする。	関係代名詞を用いて、好きな飲み物や将来の夢などについて、考えや気持ちを話して伝えている。	
指導時間数の計		70				

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○家族や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けることができる ○生活の充実向上を図る力と実践的な態度を身に付けることができる ○家庭や地域の生活上の課題を見つけ解決する能力を育成する
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
生活科学		2	全日制・普通科・3年		楽しく学べるマナーの基本(教育図書)		
科目の目標		1 家族や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けることができる 2 生活の充実向上を図る力と実践的な態度を身に付けることができる 3 家庭や地域の生活上の課題を見つけ解決する能力を育成する					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名		単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 週 日	家庭科の学び方 第1章 好感度アップのポイント	8	① 知識・技能 自己と他者との関りから自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して生活課題に対応していくことを理解している。	プリント	1 時間目： 身だしなみの基本 立ち居振る舞い	制服をきちんと来ているか等の身だしなみの確認をする。 お辞儀の仕方が3種類あることを理解する。 3つの敬語（丁寧語、尊敬語、謙譲語）やクッション言葉を使い二人一組でロールプレイする。	家庭基礎
			② 思考・判断・表現 自己の生活について主体的に考え、将来の家庭生活及び職業生活に活かす力を身に付けている。		2 時間目： 子供や高齢者の接し方 敬語の使い方 1		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 様々な人と協働し、より良い社会の構築に向けて、身だしなみ、子供と高齢者の接し方などについて、課題の解決に取り組んだり、自分や家族、地域の生活の充実を図るための実践をしようとしている。		3 時間目： 敬語の使い方 2 4 時間目： 挨拶のマナー 5 時間目： 手紙・封筒・はがきの書き方の基本 6 時間目： 年賀状の書き方・お礼状		
5月 週 日	第4章 書き方のマナー 保育(ぬいぐるみ製作)	8	① 知識・技能 自己と他者との関りから自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して生活課題に対応していくことを理解している。	プリント 課題 (ぬいぐるみ)	1 時間目： 手紙・封筒・はがきの書き方の基本	手紙、はがきの書き方を理解する。 インターネットについてルールとマナーを理解する。 ぬいぐるみを選ぶ。 手縫いや刺しゅうステッチ基礎縫いの確認をし製作する。	家庭基礎 ビジネス基礎 現代の国語
			② 思考・判断・表現 子どもの健やかな発達のために親や家族の果たす役割の重要性について問題を見出し課題を解決する力を身に付けている。		2 時間目： 年賀状の書き方・お礼状		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 子どものおもちゃについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、生活充実向上を図るために実践しようとしている。		3 時間目： ビジネス基礎 インターネットのルールとマナー 4～8 時間目： 保育 動物ぬいぐるみ製作		
6月 週 日	保育(ぬいぐるみ製作) 調理実習	8	① 知識・技能 目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。	プリント 確認テスト	1 時間目： 調理基礎 (調理器具の名称、切り方)	アイデアがあれば自分らしく縫い方などを工夫をして完成させる。 調理の基礎を確認する。	家庭基礎
			② 思考・判断・表現 食の安全や食品の調理上の性質、健康や環境に配慮した食生活について課題を解決する力を身に付けている。		2～5 時間目： 調理実習計画・実施①～②		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。		6～8 時間目： ぬいぐるみ		
7月 週 日	第2章 外出先でのマナー 第3章 食事のマナー	7	① 知識・技能 改まった食事の場でどのように振舞えばよいのかを理解している。 目的に応じたマナーを身に付けている。	プリント	1～3 時間目： 電車・訪問とおもてなしのマナー 洋室・和室・退出	電車・食事でのマナーについて話し合い発表をする。	家庭基礎 現代の国語
			② 思考・判断・表現 外出や食事で他者と快適に過ごすための課題を解決する力を身に付けている。		4～7 時間目： 箸使いの基本 日本料理について 食べ方（和洋中） 食事中的マナー違反		
			③ 主体的に学習に取り組む態度				
9月 週 日	第6章 社会人としてのマナー 被服実習 (コミュニティーバッグ製作)	8	① 知識・技能 コミュニティーバッグ製作の手順を理解している。	プリント 課題 (コミュニティーバッグ)	1～3 時間目： 履歴書 面接の受け方 社会人としての言葉づかい 役職 電話 名刺	コミュニティーバッグの柄を選ぶ。 マチを作ったり、持ち手を工夫したりと自分の好きな形にできることを伝え製作する。	家庭基礎
			② 思考・判断・表現 縫い方や形を工夫して自分らしいバッグに製作することができる。		お茶の出し方		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ミシンの扱い方、裁縫道具の確認、製作物等について、課題を解決する力を身に付けている。		4～6 時間目： コミュニティーバッグ製作		
10月 週 日	被服実習 第5章 人生の節目のしきたり	8	① 知識・技能 冠婚葬祭には守らなければならない伝統的なしきたりがあることを理解している。	プリント	1～3 時間目： コミュニティーバッグ製作	人生の節目見当てる、冠婚葬祭について、知っていることを班で話し合い発表をする。	家庭基礎
			② 思考・判断・表現 相手の立場や自分の立場、状況に応じた行動ができる。		4～8 時間目： 贈り物のマナー 冠婚葬祭節目のお祝い		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 自立に向け冠婚葬祭等のマナーについて、自分や家庭、地域の生活の向上を図るために実践しようとしている。				

11月 週 日	調理実習	8	① 知識・技能 目的に応じた調理に必要な技能を身に付けてい る。 ② 思考・判断・表現 食の安全や食品の調理上の性質、健康や環境に配 慮した食生活について課題を解決する力を身に付 ③ 主体的に学習に取り組む態度 食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り 組んだり、自分や家庭、生活の充実向上を図る ために実践しようとしている。	プリント	1～6時間目： 調理実習計画実施③～⑥ (和・洋・中・菓子)	調理の基礎を確認 する。	家庭基礎
12月 週 日	第7章 日本の年中行事	7	① 知識・技能 年中行事について理解している。 年中行事に応じた技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 日本の文化や風習について、問題を見出し課題を 解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自立に向け、日本の年中行事について、自分や家 庭、地域の生活の向上を図るために実践しようと している。	プリント 確認テスト	1～5時間目： (1月から12月の特定行事)	日本には、古くか らの文化や生活習 慣に根ざした行事 や風習があること を伝える。 生徒自身が年中行 事を体験している か話し合い発表す る。	家庭基礎
1月 週 日	調理実習	8	① 知識・技能 目的に応じた調理に必要な技能を身に付けてい る。 ② 思考・判断・表現 食の安全や食品の調理上の性質、健康や環境に配 慮した食生活について課題を解決する力を身に付 ③ 主体的に学習に取り組む態度 食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り 組んだり、自分や家庭、生活の充実向上を図る ために実践しようとしている。	プリント 確認テスト	1～6時間目： 調理実習計画、実施	ケーキ デコレーション (デザイン)を各 班で話し合う	家庭基礎
	指導時間数の計	70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
情報処理	3	全日制・普通科・3学年	情報処理 Prologue of computer(実教出版)
科目の目標	の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		

時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・ 能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～5月	1 章 企業活動と情報処理 1 節 情報処理の重要性	10	(知識・技術) (思考・判断・表現) 情報の意義と重要性について考え、説明することができたか。 情報システムの構成や処理方式の概要を理解し、具体的な利用例を説明できたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 日常利用しているさまざまな情報システムに関心をもち、その意義や役割を考え、理解することができたか。 ビジネスにおける情報の役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身につけようとする態度を持ったか。	学習ノート 定期考査	・身近な事例を基に情報とは何かを考える学習活動により、情報の意義と役割を理解する。 ・社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおける情報活用の実際を学ぶことにより、コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解する。 ・情報処理に関わる職業や仕事を学ぶことにより、ICT人材に求められる役割と身につけるべき能力の概要を理解する。	・なぜ情報処理を学ぶことが大切なのか、どのように学ぶことが大切になってきているのかについて関心をもち、自ら意欲的に質問したり調べる。	
6月	2 節 情報モラルと法規	12	(知識・技術) (思考・判断・表現) 身近な事例で情報モラルにもとづいた正しい行動のあり方を考え、説明することができたか。また、そのように行動しようとする態度を身につけたか。 ネットワーク社会の危険性に気づき、対策を理解することができたか。 個人情報や知的財産を保護することの意義を理解し、説明することができたか。 (主体的に学習に取り組む態度) 情報を取り扱う上で守るべき法律を理解し、その目的と概要を説明できたか。また、法令を遵守しようとする態度を身につけたか。	学習ノート 定期考査	・身近な事例から情報の価値を考える学習活動により、情報を正しく取り扱うことの大切さに気づき、そのために必要な情報モラルの基本的な考え方や態度について理解する。 ・情報を取り扱う上で守るべき法規の必要性と、その概要を理解する。 企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身につける。	・情報モラルの重要性和と、具体的なトラブルの実例について関心をもち、自ら意欲的に質問したり調べる。	公民科・芸術科との連携
	3 節 コミュニケーションと情報デザイン		(知識・技術) 情報処理における情報デザインについて理解するとともに、関連する技術を身につけている。 (思考・判断・表現) 情報処理における情報デザインの意義と課題について、企業活動と関連つけて見いだせる。 (主体的に学習に取り組む態度) 企業における情報処理について自ら学び、適切な情報処理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		・企業における適切な情報処理について理解するとともに、関連する技術を身につける。		
7月	2 章 コンピュータシステムと通信ネットワーク 1 節 コンピュータシステムの概要	8	(知識・技術) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ビジネスに活用できるハードウェアとソフトウェアを適切に構成して、その機能を活用することができる。	学習ノート レポート	・コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解するとともに、それを活用する基本的な技術を身につける。		理科との連携
9月	2 節 情報通信ネットワークのしくみと構成	10	(知識・技術) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) 検索・収集にインターネットを利用することに興味を持ち、効率的な検索ができるか。また、情報の価値や正確性について理解できたか。	学習ノート レポート	・情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法について理解する。		
10月	3 節 インターネットの活用	8	(知識・技術) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) 電子メールのマナーなどについて興味を持ち、適切に利用できるか。また、危険性などについて理解できたか。	学習ノート レポート・発表 定期考査	・電子メールの利用方法について理解する	・インターネットを利用して、必要な情報を検索し文書作成ソフトに貼りつけ発表する。	
11月	4 節 情報セキュリティの確保	12	(知識・技術) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) 情報技術におけるセキュリティ管理について興味を持ち、対策などを考察できるか。また、個人が身につけるべき方策や様々な問題点などについて理解できたか。	学習ノート レポート・発表	・情報化社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について理解する。	・情報セキュリティの基本的な考え方について関心をもち、利用端末の対策が十分かどうか具体例をあげ話し合う。	

12月	3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成	10	(知識・技術) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) 情報の重要性について理解するとともに、情報を分析して適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。 基本的な操作や関数等について理解し、表を作成する技術を身につけるとともに、適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	学習ノート 課題作成	・情報の重要性を理解し、情報を分析して、傾向を把握する能力を身につける。 ・基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身につける。	・使用目的にあった関数や計算式について適切かどうか話し合う。	数学科との連携
	3節 グラフの作成	10	(知識・技術) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) それぞれのグラフの特徴やグラフの構成要素を理解できたか。 目的に応じた適切なグラフを作成し、グラフから読み取れる内容を理解できたか。	学習ノート 課題作成 定期考査 レポート	・グラフの種類や構成要素、特色を理解し、表計算ソフトウェアを利用して目的に合ったグラフ作成方法について理解する。 ・問題解決の目的に応じて、データをグラフ等で適切に可視化して表現する力がある。 ・クロス集計、相関係数を用いた分析、回帰分析を行うことができる。	・使用目的にあったグラフの種類を選択し、発表することができる。	
	4節 情報の整列・検索・抽出		(知識・技術) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) 基準のキー項目でデータの整列ができるか。 フィルタ機能などを利用して、データの分類や整列、必要なデータの検索、抽出ができるか。 抽出されたデータなどの意義などを理解し、分析する判断に利用できたか。		・大量のデータを目的に応じた利用しやすい形で活用するために、表計算ソフトのデータベース機能を利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。		
	5節 問題の発見と解決の方法		(知識・技術) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) ビジネスに関する問題の発見と解決について、基礎的な技法を理解し、関連する技術を身につけている。 ビジネスに関する問題の発見と解決について、情報の提供に対する要求を分析し、科学的根拠に基づいて、表現し、評価・改善できる。 ビジネスに関する問題の発見と解決について、自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 リレーショナルデータベースとNoSQLの特徴を考慮して、格納するデータの性質や量に応じて選択することができる。		・事象をモデル化し、シミュレーションを行う基礎的な技法及びアルゴリズムを考案し、プログラムとして表現する基礎的な技法を用いた問題の発見と解決について考察することができる。また、ロジックツリー、PPM分析などを活用した情報の整理及びPDCAサイクルによる企業活動の改善について理解する。 ・データベースの意味と必要性を理解し、事例としてリレーショナルデータベースの機能について説明することができる。		
12月 ～1月	4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成] 3節 応用文書の作成	15	(思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) 情報と文書の関係などについて興味を持ち、各種文書の役割や文書の構成要素などについて理解できたか。 (知識・技術) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) ワープロソフトを利用した基本文書の作成に興味を持ち、様々な文書を適切に選択できるか。 ワープロソフトの基本的な機能を利用して様々な文書が作成でき、ワープロの機能などを理解できたか。 計算機能やグラフ、イラストなどを利用した表現力に富んだ文書の作成に積極的に取り組み、必要に応じて様々な機能を選択できるか。また、表計算ソフトウェアと連携した文書作成ができ、データの差し込み機能などを理解できたか。	学習ノート 課題作成 定期考査 レポート	・文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。 ・ワープロソフトの利用に関する知識と技術を習得させ、文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解する。 ・基本的な社内文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術について理解する。 ・ワープロの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術について理解する。		国語科との連携
1月 ～3月	5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	10	(知識・技術) (思考・判断・表現) (主体的に学習に取り組む態度) プレゼンテーション活動の意義や役割を理解するとともに、情報収集や整理、内容構成など、プレゼンテーションの準備から評価改善に至るまでの一連の流れや基礎的な技法を身につけているか。 目的や形態に応じた適切な方法で、資料作成などの準備ができているか。また、聴衆が理解しやすい資料や構成になっているか。 実習や探究問題に主体的に取り組んでいるか。	学習ノート 課題作成 定期考査 レポート・発表	・ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解するとともに、基礎的な技法を身につける。 ・目的や形態によるプレゼンテーション方法の違いについて理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、資料の作成などの発表準備から発表までの一連の活動について理解を深める。	・各種ソフトウェアを適切に活用し、様々な報告書や文書を作成、または発表を行い評価することができる。	
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○(何を学ぶか) コンピュータの基本操作から、文書作成・表計算ソフト等の習熟をはかる。 ○(どのように学ぶのか) 実践的にアプリケーションを活用し、表現する活動を行うことで、アプリケーションの使用法を身につける。 ○(何ができるようになるのか) 必要なデータを収集し、整理・分析をして、文書にまとめ表現する力を身につける。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)					
表計算		2	全日制・普通科・3学年		30時間でマスター Word&Excel2019					
科目の目標		1 Word・Excelの基礎的な知識を身につけ、活用法を理解する。(知識及び技術) 2 必要な情報を読み取り的確に処理し、簡潔・明瞭・的確に表現する。 与えられた情報を理解し、必要な公式にあてはめて、数値を求める。(思考力、判断力、表現力等) 3 Word・Excelを実践的に活用し、図や文書の作成をおこない表現したいことをわかりやすく伝えられるようにする。(学びに向かう力、人間性等)								
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連			
4月 2週目	基本操作とWeb検索	2	① 知識及び技術 ・パソコンの起動方法ファイル・フォルダーの扱い方。 ② 思考・判断・表現 ・自ら調べたいモノを、ブラウザを活用して調べることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・学習して身についたことを活かしまとめる。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	○コンピュータを使用し、実践的に学習する。					
4月 2週目 ～ 6月3週目	Word	20	① 知識及び技術 ・Wordの基本的操作から、多様な機能を理解する。 ② 思考・判断・表現 ・実践的に指定された文書を作成する。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・自ら習得した技能を用いて、文書や表をまとめる。 ・タイピングをおこなう。	・ 考査 ・ 提出物 ・ 提出物			情報			
6月 4週目 ～ 12月1週目	Excel	36	① 知識及び技術 ・Excelの基本的な知識、操作方法を学習する。 ・関数について理解する。 ② 思考・判断・表現 ・指定にあったグラフの作成をおこなう。 ・データの分析をおこなう。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・データを正しく分析し、グラフを作成しまとめる。	・ 考査 ・ 提出物 ・ 提出物		○Wordの基本的操作を学習し、文書作成の技能を身につけ、指定されたレポートを作成する。		情報・数学		
12月 2週目 ～ 12月3週目	マルチメディアの活用	4	① 知識及び技術 ・画像を編集する力を理解する。 ・HTMLについて学ぶ。 ・電子メールの注意点。 ② 思考・判断・表現 ・電子メールの使用法を理解し、活用する。 ・HTMLを用いて、ホームページを作成する。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ホームページを作成する。	・ 考査 ・ 提出物 ・ 提出物	○画像編集や、実際にHTML・CSSを活用しホームページを作成する。					
12月 3週目 ～ 1月2週目	プログラミング	4	① 知識及び技術 ・プログラミングについて学習する。 ・言語の種類や、身近なプログラミングを理解する。 ② 思考・判断・表現 ・身近にどのような場所で使われていて、どう活用するのかを考える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・実際にプログラムを組んでみる。	・ 考査 ・ 提出物 ・ 提出物						
1月 2週目 ～ 1月3週目	リファレンス	4	① 知識及び技術 ・ネットワークについて ・肖像権・著作権・プライバシーについて。 ② 思考・判断・表現 ・コンピュータウイルスについて考える。 ・情報引用について判断する。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ネットモラルについて考え、まとめる。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物		○ネットワークの活用方法を理解する。著作権・肖像権の理解。個人情報について。				
指導時間数の計		70								